

大分の畜産

2013

頂

いただき

大分で育った黒毛和牛

おおいた

豊後牛

BUNGO GYU

大分県豊後牛流通促進対策協議会

大分県内で最も長く肥育された36ヶ月未満の黒毛和種のうち、肉質等級4等級以上のもののみ「おおいた豊後牛“頂”（いただき）」と呼ばれます。

平成25年度

大分県

目 次

I 農業及び畜産の概要	
1. 農業の概要	1
2. 畜産の概要	3
II 家畜別の動き	
1. 肉用牛	4
2. 乳用牛	8
3. 豚	11
4. 採卵鶏	13
5. ブロイラー	16
6. 地鶏	19
7. 生産費と所得の推移	20
III 飼料	22
IV 家畜衛生・畜産環境	25
V 平成 26 年度 大分県畜産関係補助事業等（抜粋）	27
資料 1 畜産関係団体等一覧	31
資料 2 畜産関係機関県組織機構	32
資料 3 大分県の種雄牛	33
資料 4 県内の主要なふれあい牧場	34
資料 5 平成 25 年農林水産部 畜産振興課・畜産技術室の 主な出来事	36

I 農業及び畜産の概要

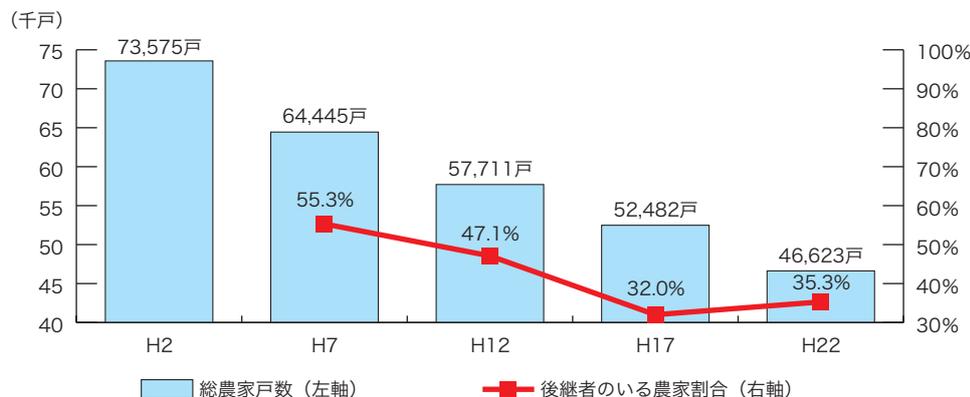
1. 農業の概要

(1) 本県農業の位置づけ

項目	単位	区分					資料
		大分県	九州	全国	大分/九州(%)	大分/全国(%)	
総農家戸数	戸	46,623	363,232	2,527,948	12.8	1.8	農林水産省「農林業センサス(平成22年)」
販売農家戸数	戸	29,512	237,899	1,631,206	12.4	1.8	
(構成比)	(%)	63.3	65.5	64.5	96.6	98.1	
農業就業人口	人	43,977	405,407	2,605,736	10.8	1.7	農林水産省「生産農業所得統計(平成24年)」
農業産出額	億円	1,312	16,601	86,104	7.9	1.5	
生産農業所得	億円	458	5,177	29,771	8.8	1.5	
生産農業所得÷農業産出額	(%)	34.9	31.2	34.6	111.9	101.0	
農業産出額÷総農家戸数	千円	2,814	4,570	3,406			
農業産出額÷販売農家戸数	千円	4,446	6,978	5,279			
耕地面積	ha	57,200	554,300	4,549,000	10.3	1.3	農林水産省「耕地及び作付面積統計(平成24年)」
田面積	ha	40,500	321,900	2,469,000	12.6	1.6	
(構成比)	(%)	70.8	58.1	54.3	121.9	130.4	
畑面積	ha	16,700	232,500	2,080,000	7.2	0.8	
(構成比)	(%)	29.2	41.9	45.7	69.7	63.9	
うち牧草地	ha	2,800	13,700	613,300	20.4	0.5	
(構成比)	(%)	4.9	2.5	13.5	196.0	36.3	

(注) 販売農家：経営耕地面積が30a以上又は農産物販売金額が50万円以上の農家。
 農業就業人口：販売農家で、農家に常住し、しかも生活の本拠をそこに持つ世帯員のうち、調査期日前1年間に、「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」。
 生産農業所得：農業産出額から生産のために投入された物的経費を控除して推計したものの。

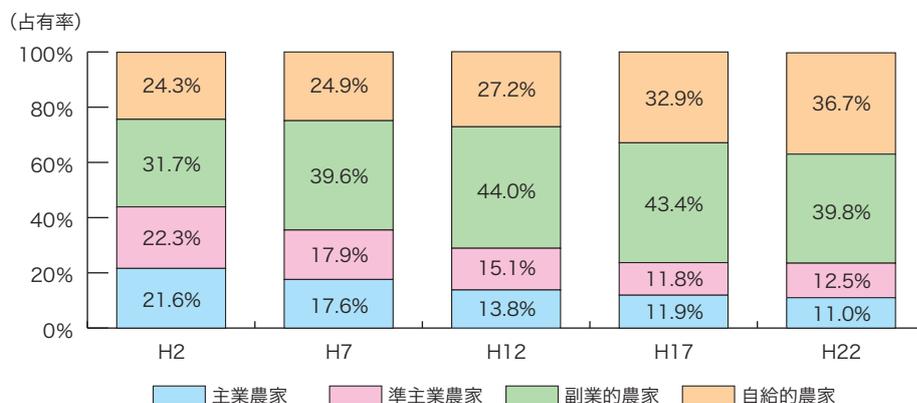
(2) 農家戸数の推移（大分県）



農家戸数はH22年が46,623戸で、5年前に比べ11.2%減少した。5年毎に約10%が廃業しており、この20年で3分の2以下まで減少した。
 後継者のいる農家割合はH22年が35.3%で、5年前に比べ110.3%（3.3ポイント）増加したものの、戸数では300戸以上減少している。

資料：農林水産省「農林業センサス」

(3) 主業副業農家占有率の推移（大分県）

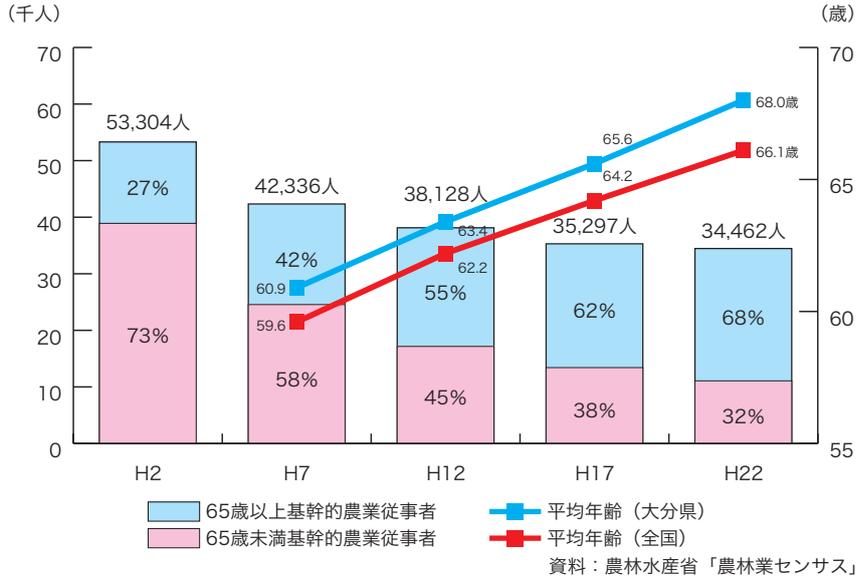


H22年の農家戸数46,623戸のうち主業農家の割合は11.0%（5,144戸）で、5年前に比べ0.9%減少した。
 農家戸数は5年前に比べ、11.2%の減少に対し、主業農家戸数は17.6%（1,119戸）減少した。

資料：農林水産省「農林業センサス」

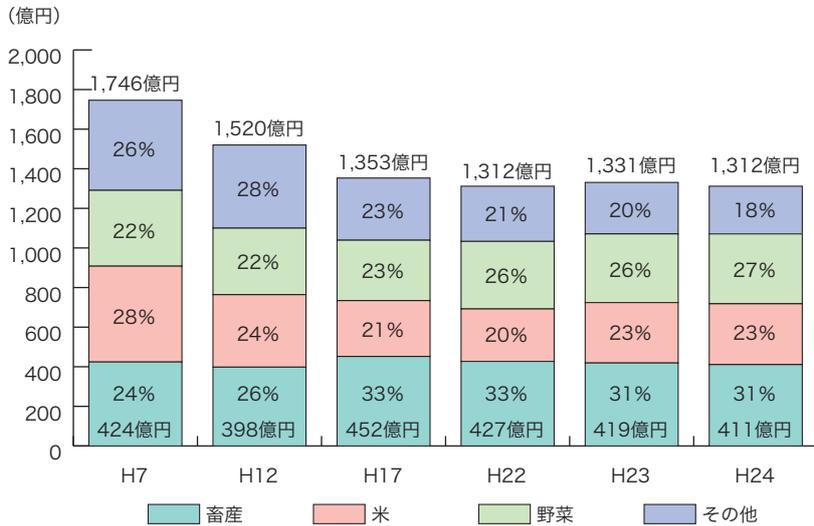
(注) 主業農家：販売農家のうち農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 準主業農家：販売農家のうち農外所得が主で65歳未満の農業従事60日以上の方がいる農家。
 副業的農家：販売農家のうち65歳未満の農業従事60日以上の方がいない農家。（主業農家・準主業農家以外の農家）
 自給的農家：経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家。

(4) 農業労働力の推移 (大分県)



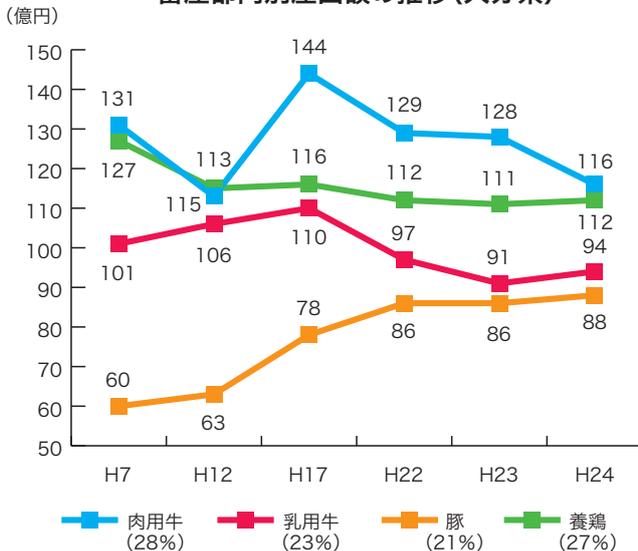
基幹的農業従事者数は、H22年の従事者数は34,462人で、5年前に比べ97.6%と、減少傾向が鈍化している。
 65歳未満従事者割合は、H22年は32%と5年前に比べ5.6ポイント(2,241人)減少し、全体の3分の1を下回っている。
 平均年齢は、H22年は68歳であり、5年前に比べ2.4歳上昇している。5年毎に、2歳強上昇しており、現在のペースで高齢化が進むと、H27年には70歳を超える可能性が高い。
 (注) 基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員(農業就業人口)のうち、調査日前1年間の普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のこと。

(5) 農業産出額 (大分県)

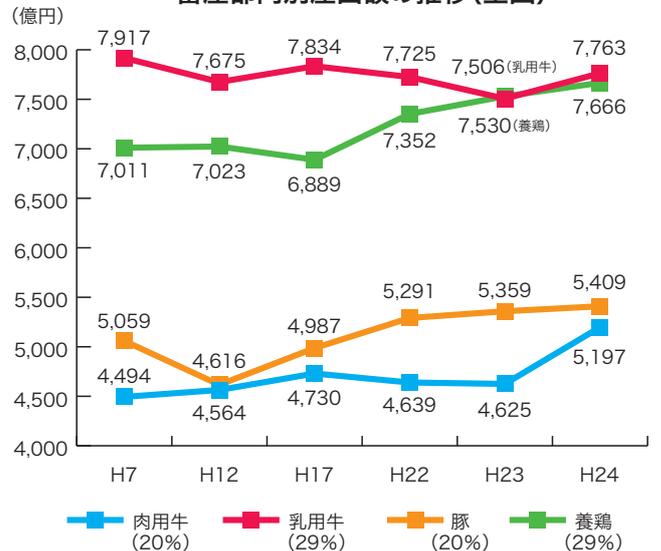


H24年の農業総産出額は1,312億円で前年に比べ19億円(1.4%)減少した。畜産は411億円で総産出額の31%を占め、前年に比べ8億円(1.9%)減少した。
 農業産出額のうち畜産部門別産出額は、肉用牛は116億円(畜産に占める構成比28%)で、前年に比べ9.4%減少した。乳用牛は94億円(同23%)で3.3%、豚は88億円(同21%)で2.3%、養鶏は112億円(同27%)で0.9%、前年に比べ増加している。

畜産部門別産出額の推移(大分県)



畜産部門別産出額の推移(全国)



(注) () はH24年の構成比

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

2. 畜産の概要

(1) 家畜の飼養戸数・頭羽数（平成 25 年 2 月 1 日）

		大分県		九州			全国		
		実数	対前年比(%)	実数	対前年比(%)	順位	実数	対前年比(%)	順位
肉用牛	戸数	1,590	91.9	26,900	93.4	5	61,300	94.0	11
	頭数	52,700	90.2	946,500	97.1	6	2,642,000	97.0	16
	頭/戸	33.1	98.2	35.2	103.9	5	43.1	103.2	35
乳用牛	戸数	172	94.5	1,880	95.4	6	19,400	96.5	25
	頭数	14,700	98.7	120,200	100.4	5	1,423,000	98.2	17
	頭/戸	85.5	104.4	63.9	105.2	1	73.4	101.7	3
豚	戸数	69	95.8	1,770	96.2	5	5,570	95.4	23
	頭数	153,600	99.2	3,056,000	99.1	5	9,685,000	99.5	19
	頭/戸	2,226.1	103.5	1,726.6	103.0	1	1,738.8	104.3	9
採卵鶏	戸数	40	97.6	533	96.2	6	2,650	94.3	26
	千羽	1,521	97.1	23,216	96.3	6	172,238	98.5	29
	千羽/戸	38.0	99.5	43.6	100.1	4	65.0	104.4	32
ブロイラー	戸数	58	98.3	1,150	113.5	5	2,420	101.2	10
	千羽	2,510	112.6	66,154	133.2	6	131,624	122.9	11
	千羽/戸	43.3	114.5	57.5	117.3	6	54.4	121.4	18

※ブロイラーについては、H22年2月1日～H24年2月1日の調査がなかったため、「対前年比」は「対H21年比」で記載。

(資料：農林水産省「畜産統計」「食鳥流通統計」)

①肉用牛

戸数、頭数ともに全国の上位に位置するが、1戸あたりの飼養規模は全国35位(H24年32位)であり、H23年以降、2年連続で規模が縮小している。

②乳用牛

飼養戸数、頭数共に前年に比べ減少したが、1戸あたりの飼養頭数は対前年比4.4%増え、九州1位、全国3位の規模となっている。

③豚

飼養戸数、頭数共に前年に比べ減少したが、1戸あたりの飼養頭数は対前年比3.5%増え、九州1位、全国9位の規模となっている。

④採卵鶏

飼養戸数、羽数共に前年に比べ減少し、1戸あたり飼養羽数もわずかに減少している。

⑤ブロイラー

飼養戸数はH21年に比べ減少したが、飼養羽数は12.6%、1戸あたり飼養羽数は14.5%増加している。

(2) 認定農業者数（畜産：平成 25 年 3 月末時点）

	県計	畜産単一経営小計					
		酪農	肉用牛	養豚	養鶏	その他	
認定農業者数	4,286	404	118	193	43	49	1
法人数	523	95	34	20	23	17	1
率	12.2%	23.5%	28.8%	10.4%	53.5%	34.7%	100%

(注)「畜産単一経営」とは畜産関係販売金額が農産物総販売金額の80%以上を占める経営をいう

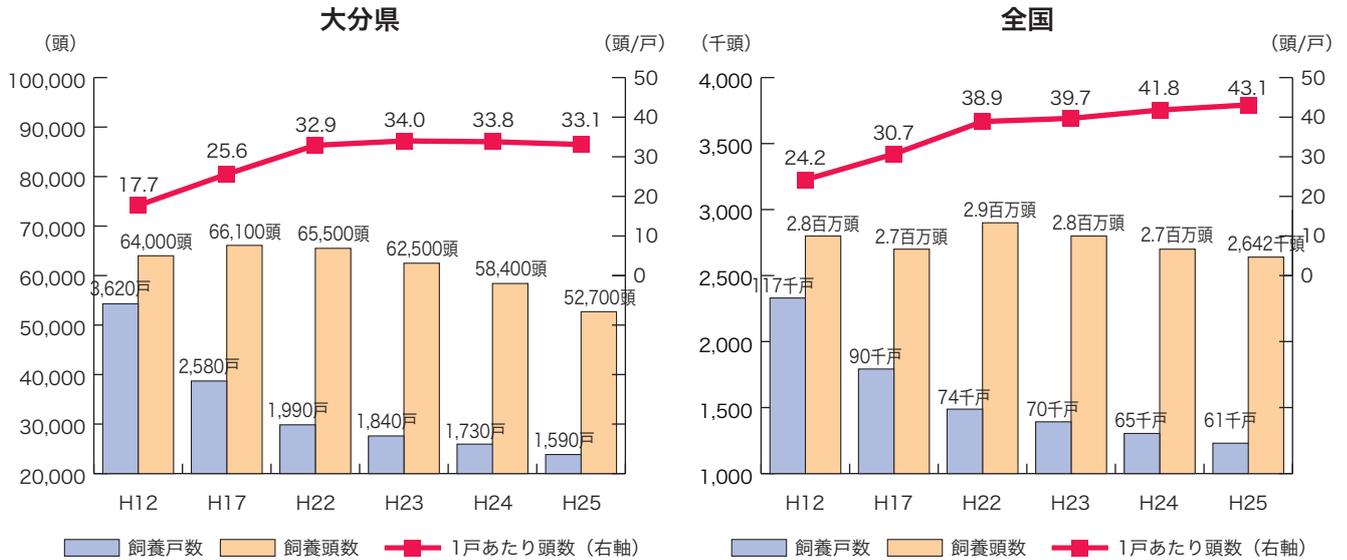
(資料：大分県)

畜産単一経営における認定農業者数は404戸であり、法人化率は23.5%と県全体の法人化率12.2%の約2倍となっている。特に養豚、養鶏における法人化率が高く、家族経営が中心となっている肉用牛は10.4%と県全体の法人化率も下回っている。

II 家畜別の動き

1. 肉用牛

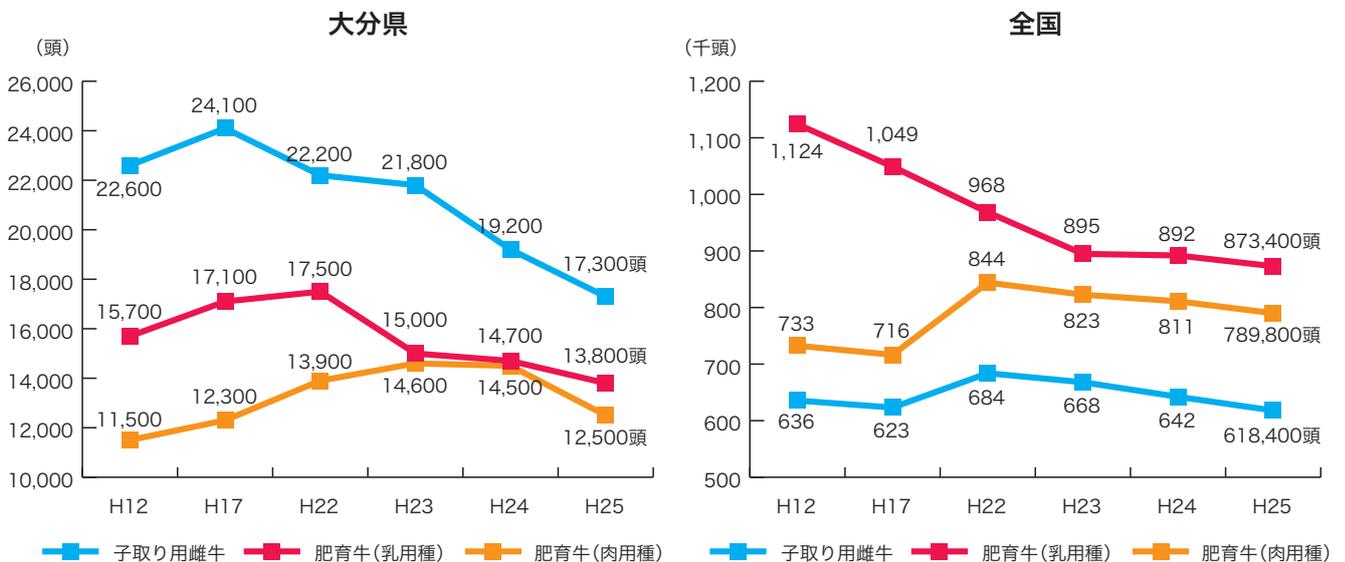
(1) 飼養戸数・頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

H25年2月1日現在の飼養戸数は1,590戸で前年に比べ140戸（8.1%）減少した。高齢化や大規模農家の廃業で毎年減少しており、H12年に比べて半数以下になっている。
 飼養頭数は52,700頭で、前年に比べ5,700頭減少し、H22年以降の3年間で12,800頭減少した。廃業だけでなく、中小規模経営体を中心に規模の縮小が進んだことが大きな要因と考えられる。
 1戸あたりの飼養頭数は33.1頭と、2年連続で減少している。

(2) 用途別頭数の推移

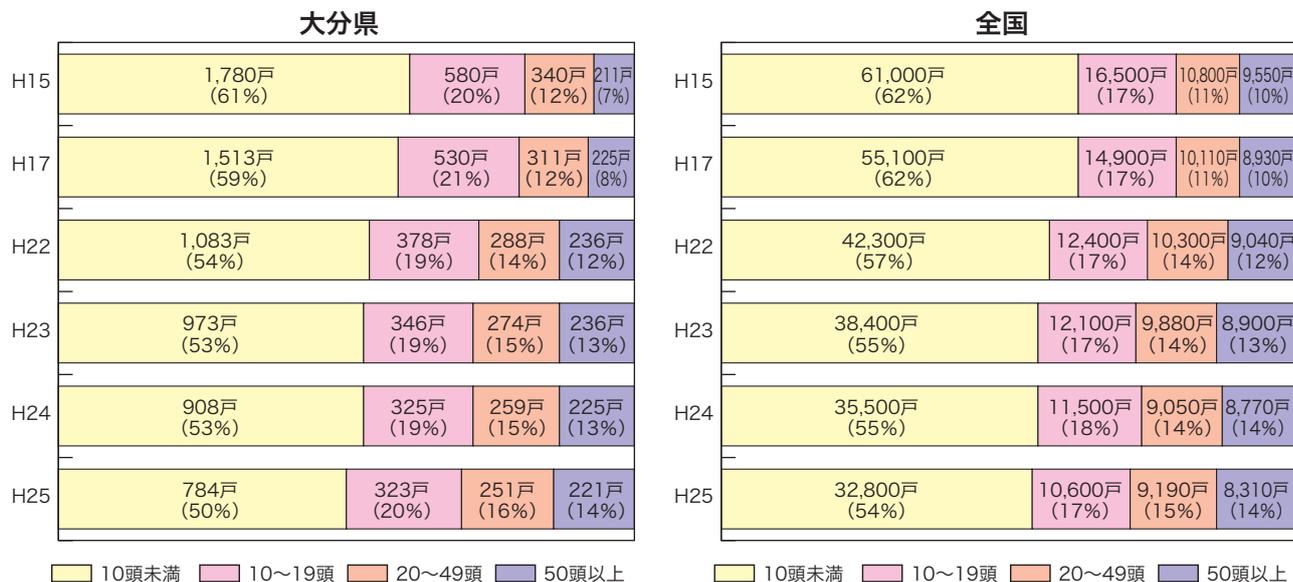


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 子取り用雌牛：子牛の生産を目的として飼養している雌牛（過去に種付けしたことのある牛及び近い将来種付けをすることが確定している牛。）
 (注2) 肥育牛：肉牛販売を目的に飼養している牛。したがって、ほ育・育成中の牛でも引き続き自家で肥育する予定のものは肥育牛とする。

子取り用雌牛は17,300頭で、前年に比べ1,900頭（9.9%）減少した。
 肥育牛（肉用種）は、12,500頭で前年に比べ2,000頭（13.8%）減少している。
 肥育牛（乳用種）は、13,800頭で前年に比べ900頭（6.1%）減少した。
 飼料価格の高騰や経営者の高齢化等の影響により、全ての用途で大幅に減少している。

(3) 規模別飼養戸数の推移

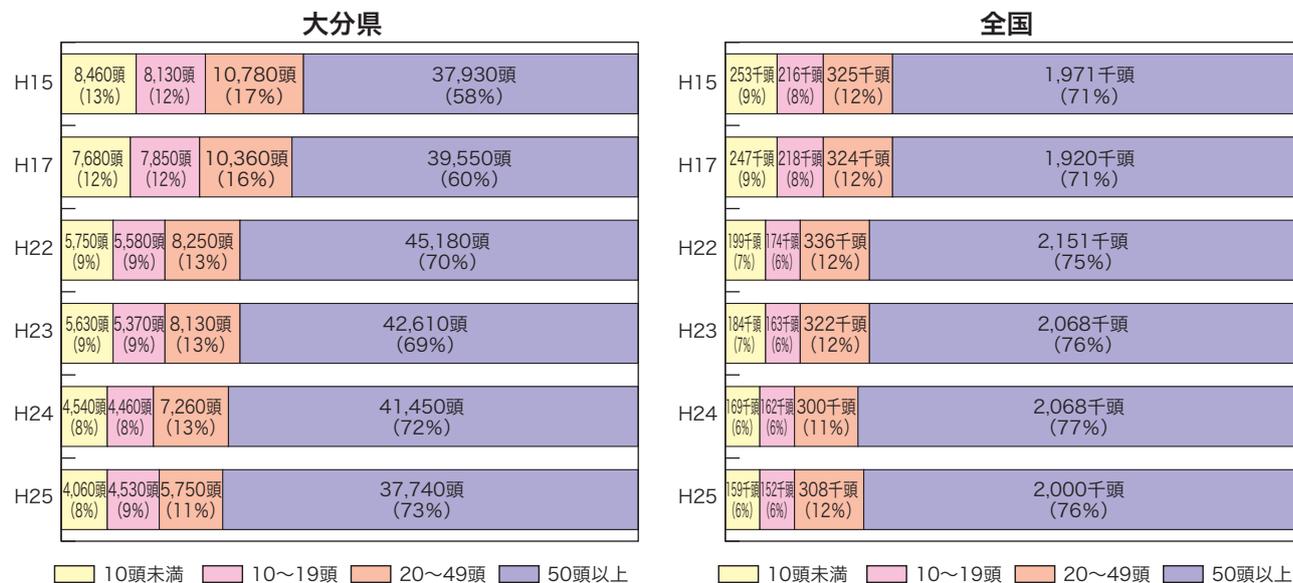


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

大分県、全国共により大規模な階層の占める割合が増加している。
これは小規模経営体の減少ペースが大きいため、相対的に増加しているものであり、実戸数は減少している。

(2) 規模別飼養頭数の推移

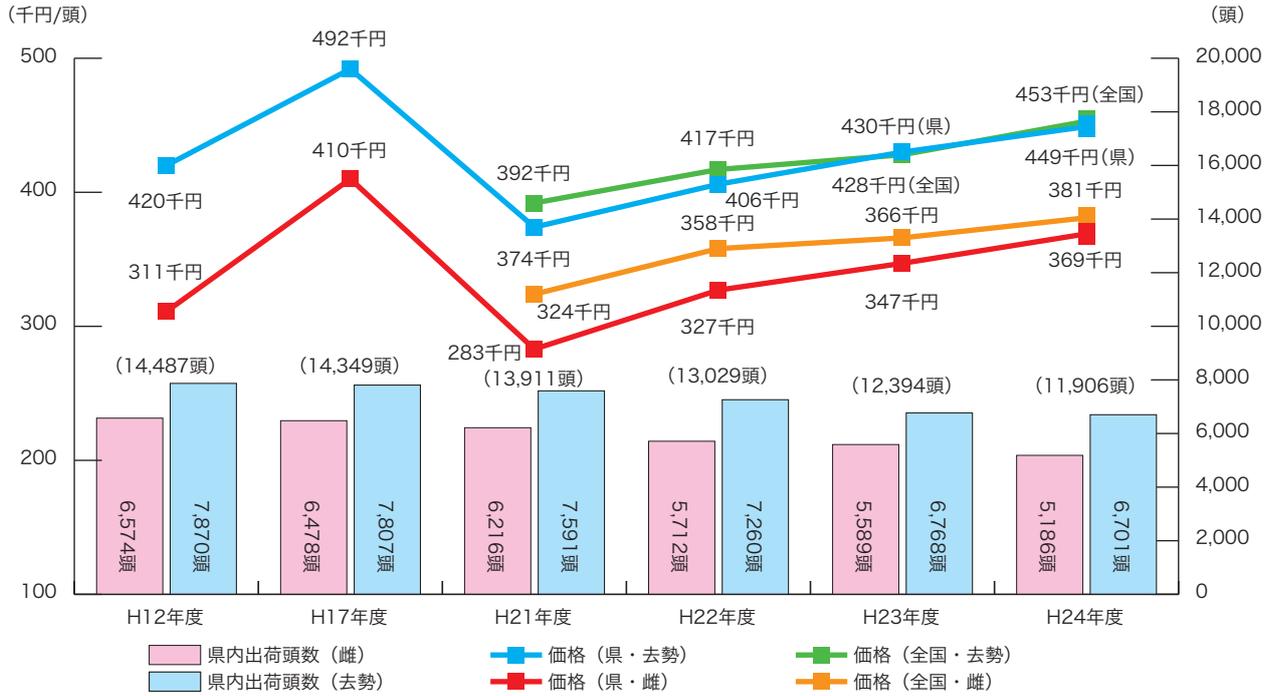


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

大分県、全国共により大規模な階層の占める割合が増加している。
これは小規模経営体の減少ペースが大きいため、相対的に増加しているものであり、実頭数は減少している。

(5) 子牛市場出荷頭数・平均価格の推移

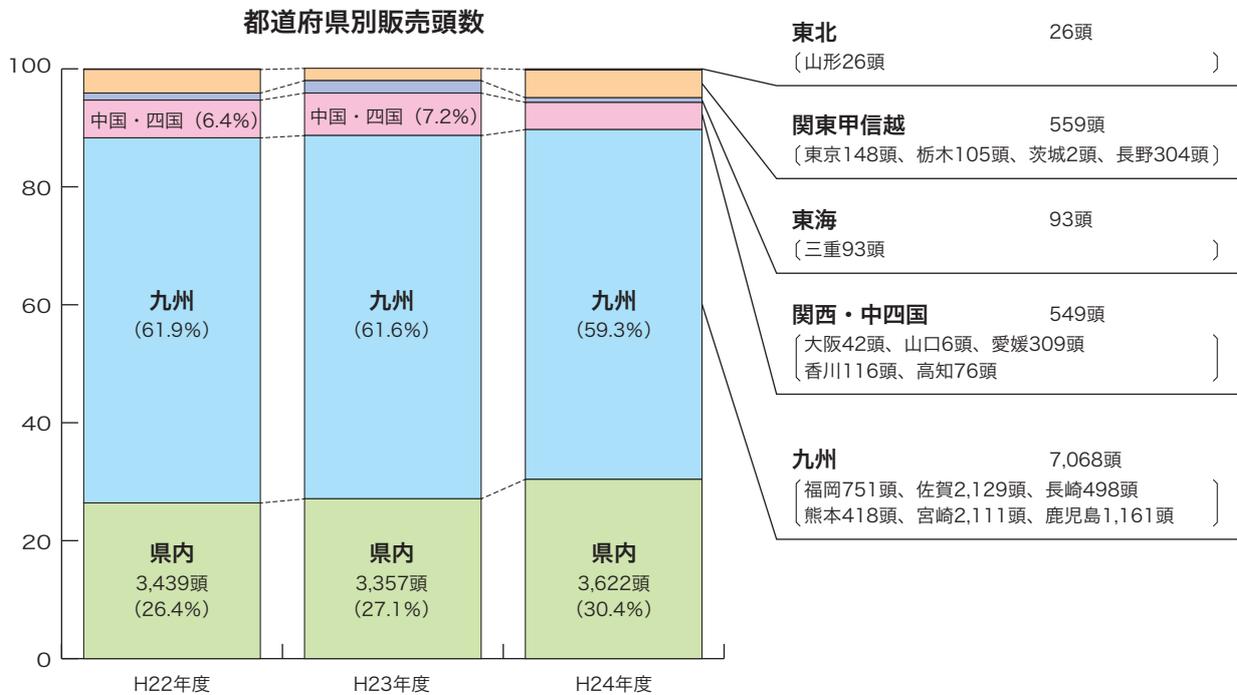


資料：全農大分県本部

(注1) グラフ内「去勢」頭数には「雄」頭数を含まず、()内出荷合計頭数には「雄」頭数を含まため、合計頭数は一致しない
 (注2) 「大分の畜産 2011」以前は「入場頭数」を、「大分の畜産 2012」以降は「成立頭数」を「出荷頭数」として計上
 (注3) 再上場による頭数等は含まない

H24年度の県内出荷頭数は11,906頭で、前年に比べ488頭(3.9%)少なく、出荷頭数は毎年減少している。H24年度の市場平均価格は、雌・去勢ともに上昇し、H24年度末にはH17年度の水準と同程度となっている。去勢平均価格は全国平均と同程度となっているが、雌は全国平均を12千円(3.1%)下回っている。

(6) 肉用子牛(黒毛和種)の流通

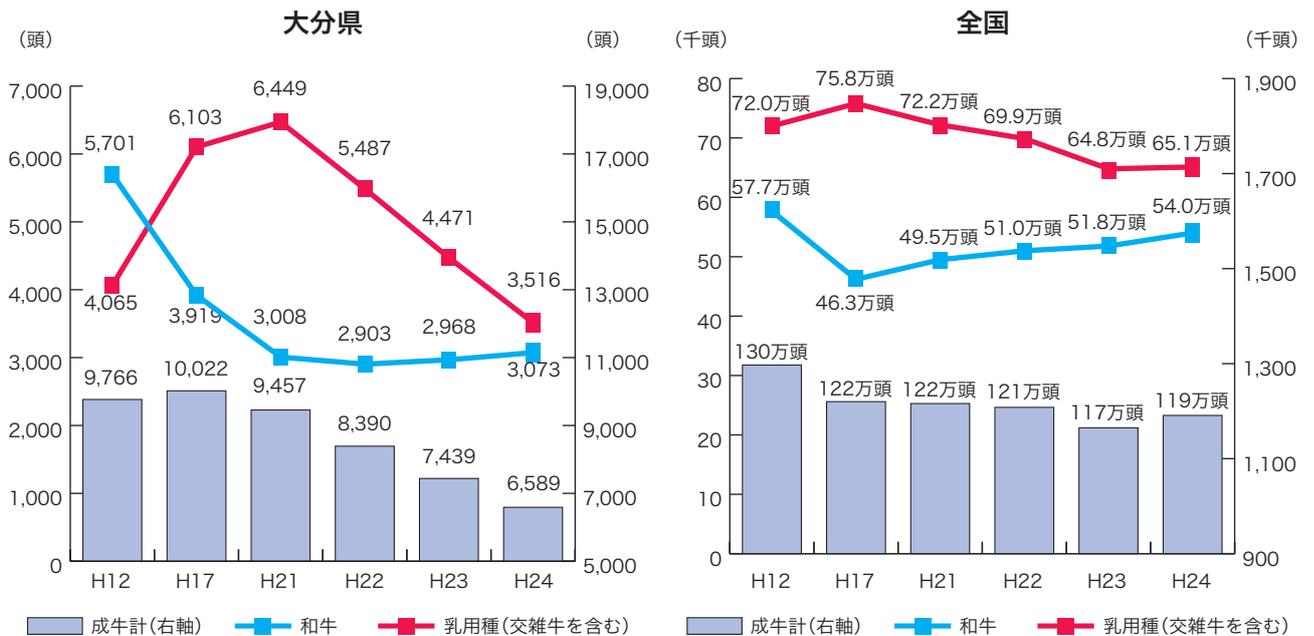


資料：全農大分県本部

(注) 再上場による頭数等を含むため、(5)に示す出荷頭数とは必ずしも一致しない

H24年度の県内販売頭数は3,622頭で、総出荷頭数11,917頭の30.4%であった。県内向け販売頭数割合は前年比3.3ポイント上昇し30%を超え、頭数も265頭増加している。地域別では九州向けが7,068頭(59.3%)と最も多く、県外販売頭数のうち85.2%を占めている。県別では、佐賀県が2,129頭(17.8%)と最も多く、次いで宮崎県2,111頭(17.7%)、鹿児島県1,161頭(9.7%)であった。

(7) 肉用牛県内と畜頭数の推移

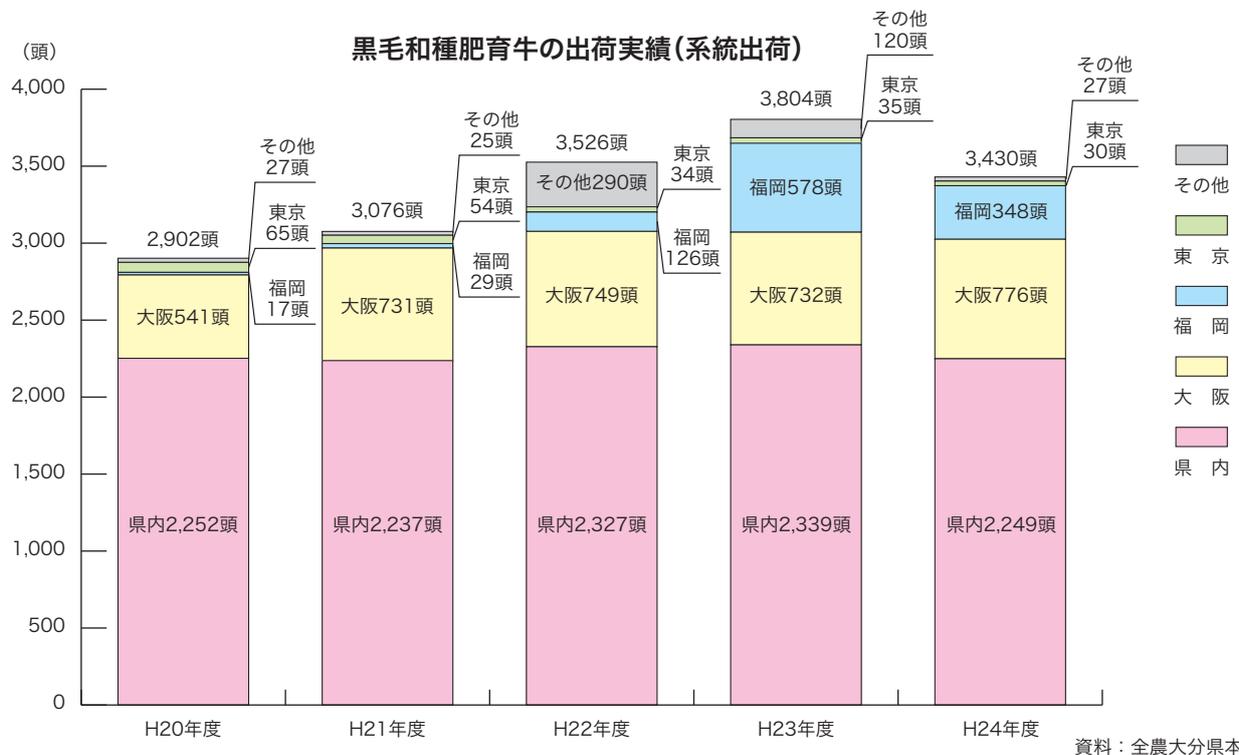


(正誤)「大分の畜産 2012」H21年大分県内と畜頭数のうち乳用種(交雑牛を含む)頭数 誤: 6,470頭 → 正: 6,449頭

資料: 農林水産省「畜産物流通統計」

H24年の成牛と畜頭数は6,589頭で前年比11.4%、H21年比30.3%減少し、特に乳用種(交雑牛を含む)の減少が多い。和牛と畜頭数はH22年まで減少が続いたが、H24年は3,073頭(対前年比103.5%)とわずかながら増加した。H24年の乳用種(交雑牛を含む)と畜頭数は3,516頭(うち乳牛2,198頭)で、前年の4,471頭(うち乳牛2,678頭)に比べ、21.4%減少した。

(8) 県産肉用牛(黒毛和種肥育牛)の流通

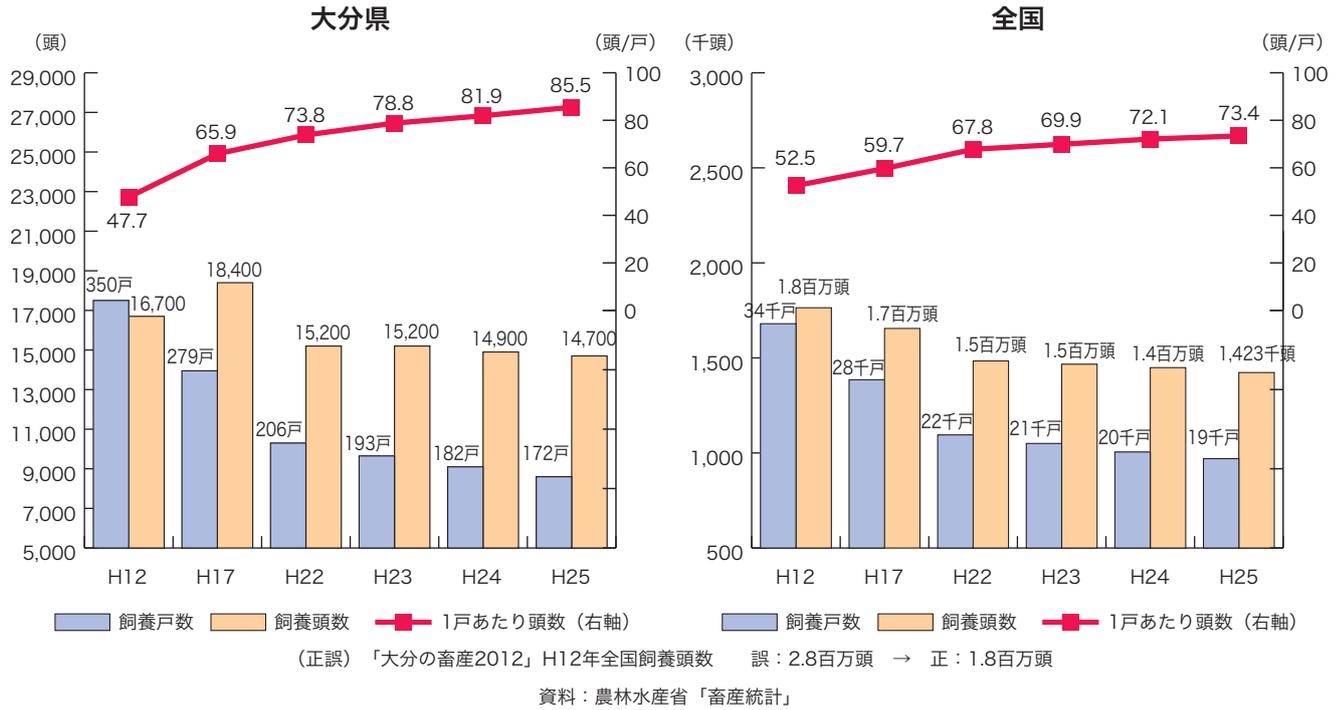


資料: 全農大分県本部

H24年度の黒毛和種肥育牛の出荷頭数(系統出荷)は3,430頭で、前年比90.1%と減少している。出荷頭数の都道府県別仕向け頭数は、大阪の出荷頭数が最も多く、県外出荷の65.7%を占める。近年、福岡向けが大幅に増加してきていたが、H24年度は348頭と前年度に比べ60.2%に留まっている。

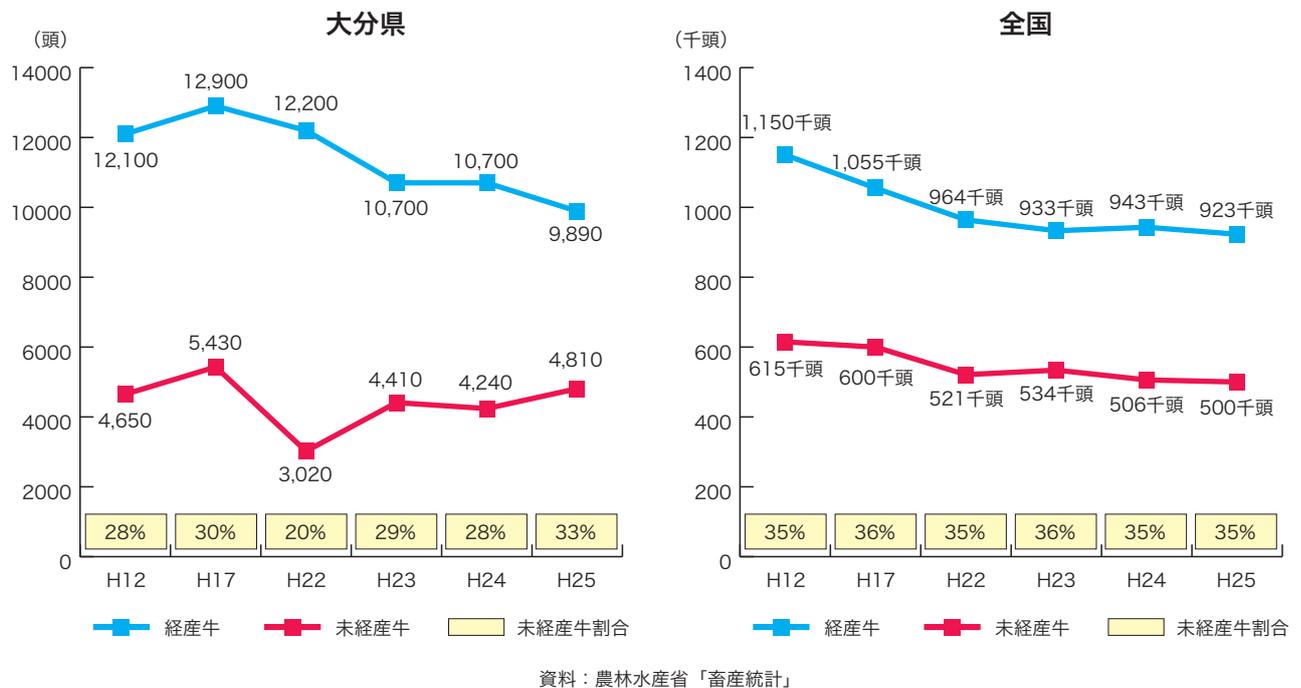
2. 乳用牛

(1) 飼養戸数・頭数の推移



H25年2月1日現在の飼養戸数は172戸で前年に比べ10戸減少した。飼養戸数は減少を続けており、H12年比で49%まで減少している。
飼養頭数は前年に比べ200頭（1%）減少し14,700頭となっている。H12年からH17年にかけて急速に規模拡大が進みH17年には18,400頭であったが、生産調整等の影響によりH17年比79%まで減少している。
1戸あたり飼養頭数は順調に拡大しており、H12年には全国平均を下回っていたが、その後は常に全国平均を上回っている。

(2) 用途別頭数の推移



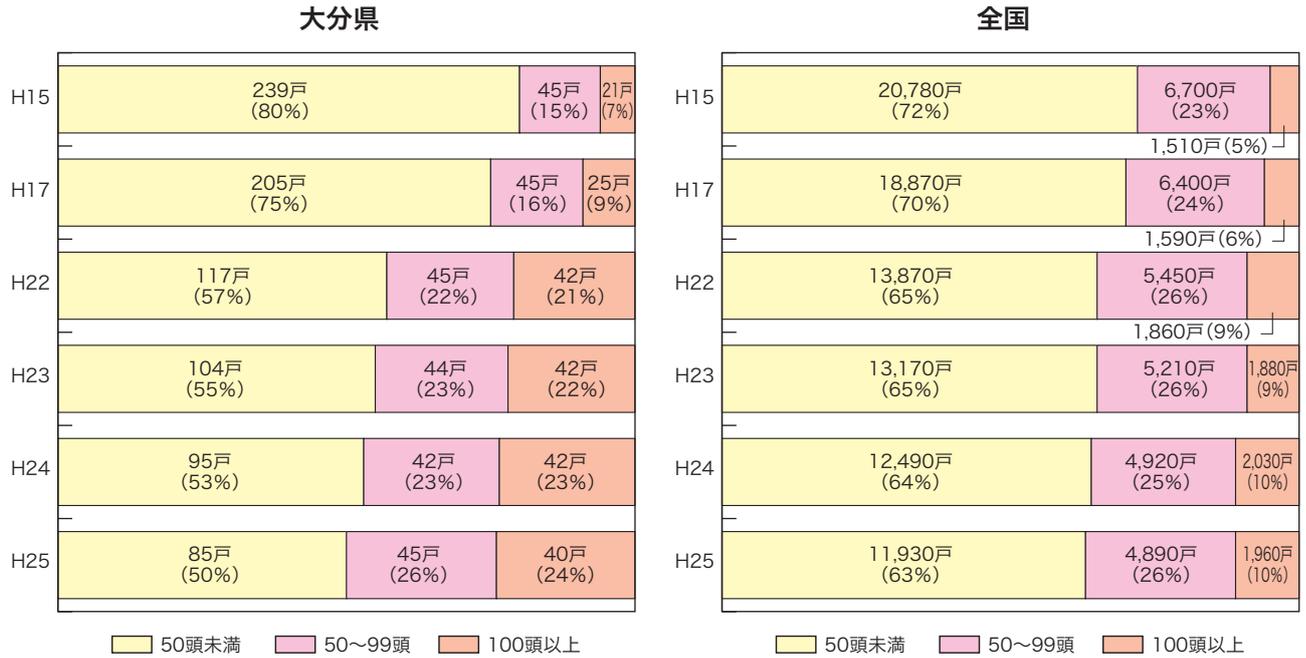
(注1) 搾乳牛：経産牛のうち、搾乳中の牛のこと。

(注2) 乾乳牛：経産牛のうち、搾乳していない牛のこと。分娩前乾乳と空胎乾乳がある。

(注3) 未経産牛：出生してから分娩するまでの牛で、生後30ヶ月位までが主体。

大分県は全国に比べ未経産牛割合が低く、H22年には20%まで低下している。その後、上昇し、H25年は33%と、H12年以降最も高い水準となっている。

(3) 成畜飼養頭数規模別飼養戸数の推移

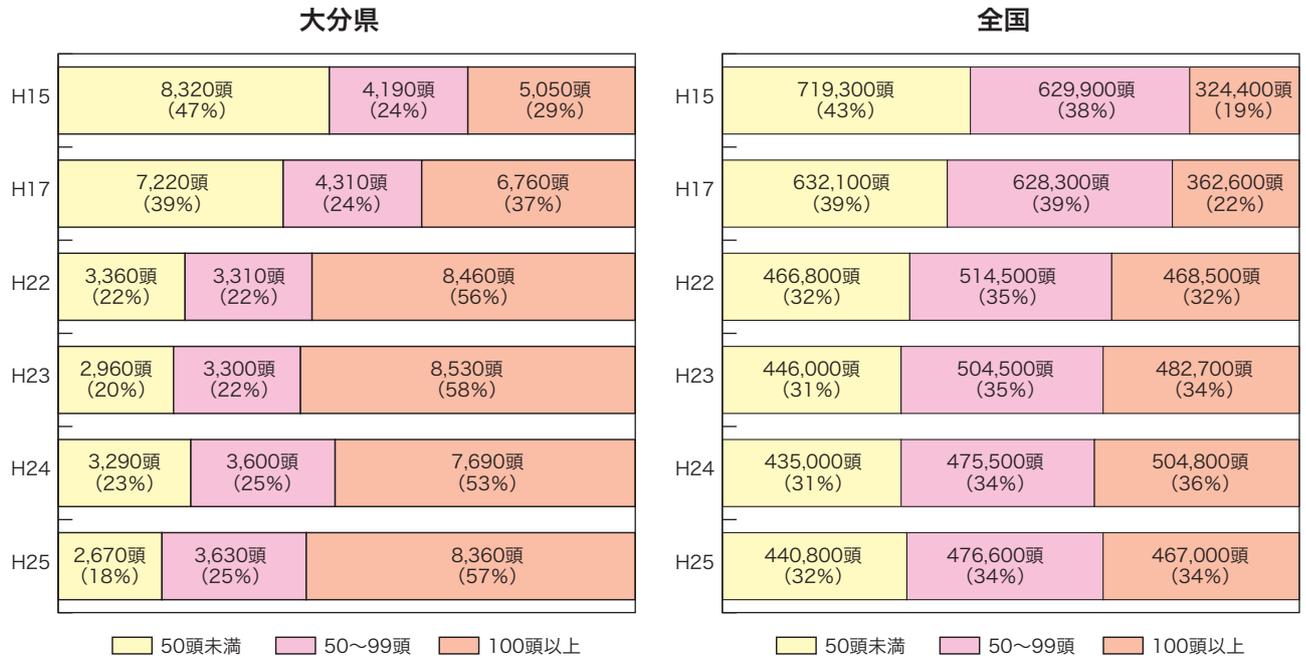


資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

H25年の100頭以上の戸数割合は24%であり、全国の同割合10%を大きく上回っている。50頭未満の減少が多く、10戸減となっている。

(4) 成畜飼養頭数規模別飼養頭数の推移



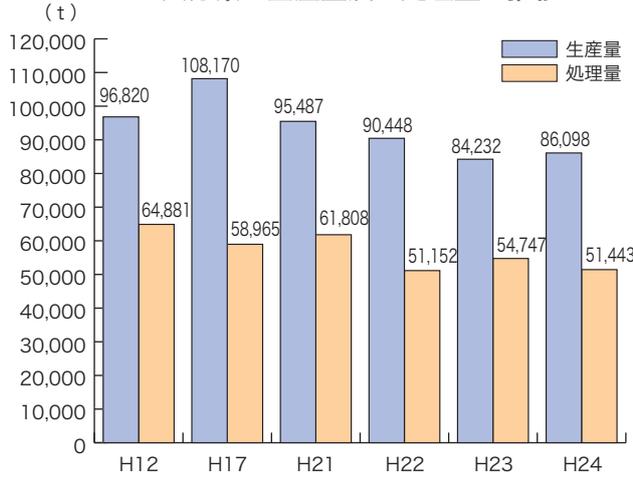
資料：農林水産省「畜産統計」

(注) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない

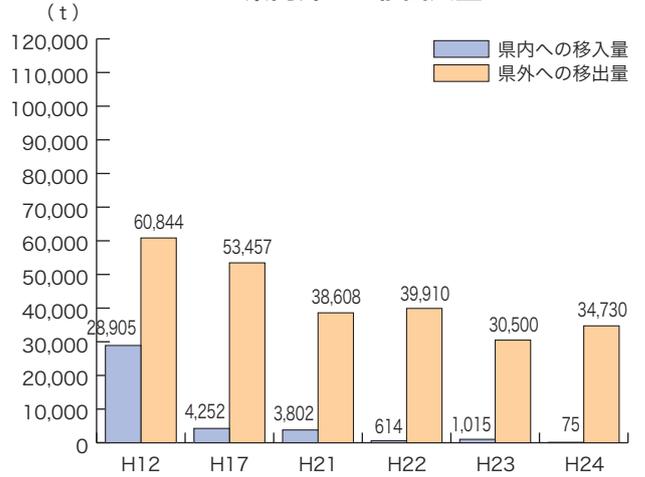
H25年の100頭以上の飼養頭数は、8,360頭と前年に比べ670頭 (8.7%) 増加し、飼養頭数割合も前年の53%から57%へと上昇した。全国では100頭以上の飼養頭数及び割合は前年に比べ減少している。

(5) 生乳生産量・処理量の推移

大分県の生産量及び処理量の推移

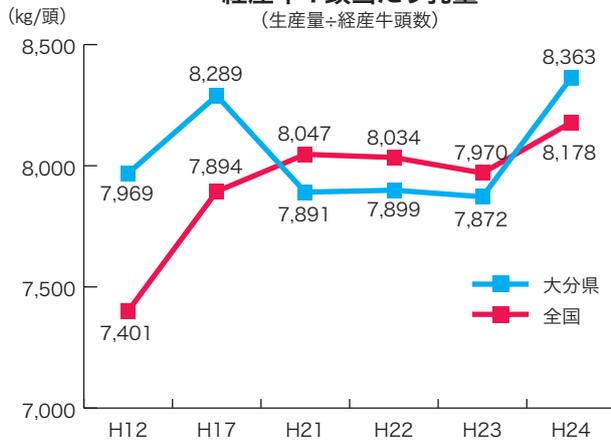


県内外への移出入量



経産牛1頭当たり乳量

(生産量÷経産牛頭数)



①生産量及び処理量

生産調整開始後、生産量は年々減少しているが、H24年は前年比1,866t (2.2%) 増加している。

②県内外への移出入量

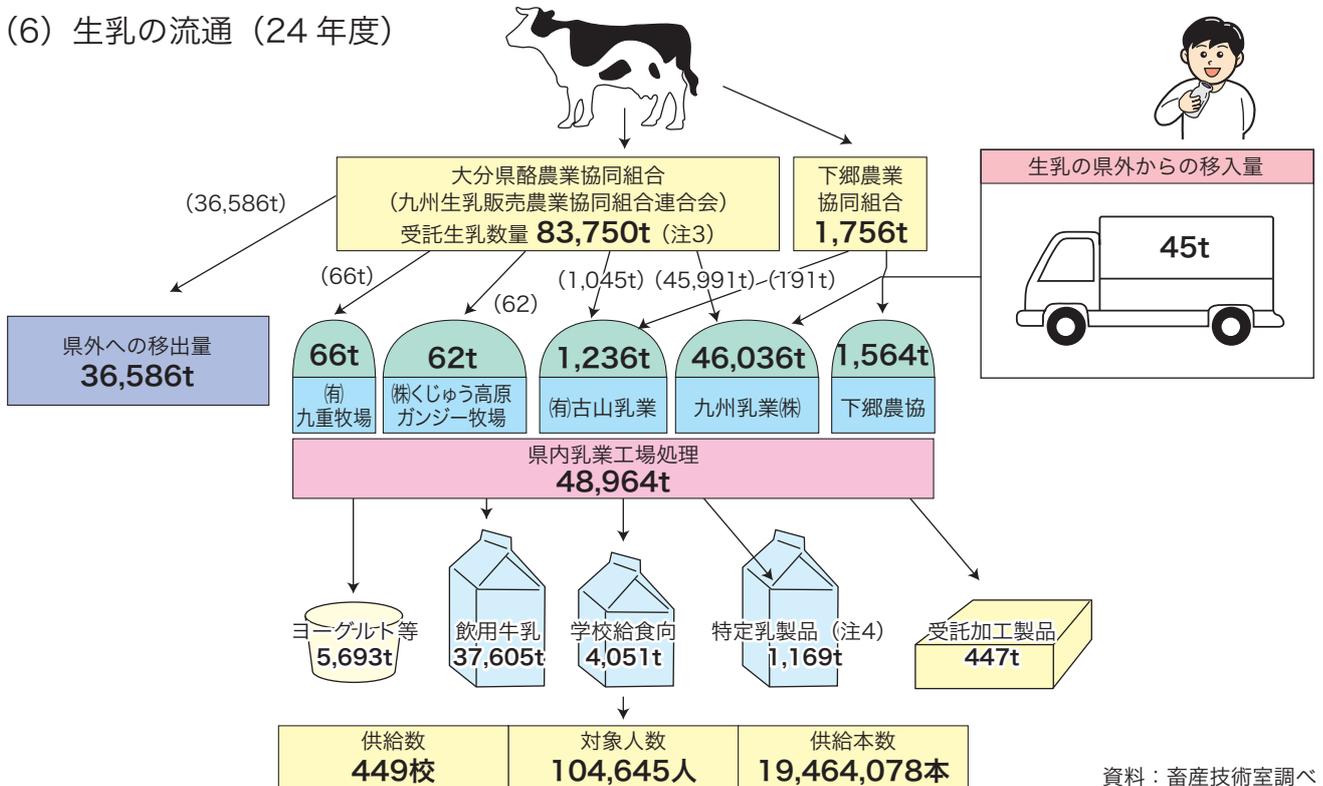
大分県は移入量に比べ移出量の多い輸出県だが、移出量はH12年6万トン強あったものが、H23年3.5万トンまで減少している。

③経産牛1頭あたり乳量

H17年までは大分県が全国平均を大きく上回っていたものの、生産調整開始後、飼養頭数と乳量枠とのバランスが崩れ、全国平均を下回ることとなった。H24年は回復し、全国平均を上回っている。

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」より

(6) 生乳の流通 (24年度)



資料：畜産技術室調べ

(注1) 生乳生産量：初乳を除く生乳(搾乳したままの乳用牛の乳)の総量であり、乳製品工場、牛乳処理場に出荷したもののほか、生産者の自家飲用、子牛ほ乳用等を含めたもの。

(注2) 生乳処理量：生乳を県内で乳製品向け、飲用牛乳向け、その他向け(自家飲料、子牛のほ乳用)に処理したものの量。

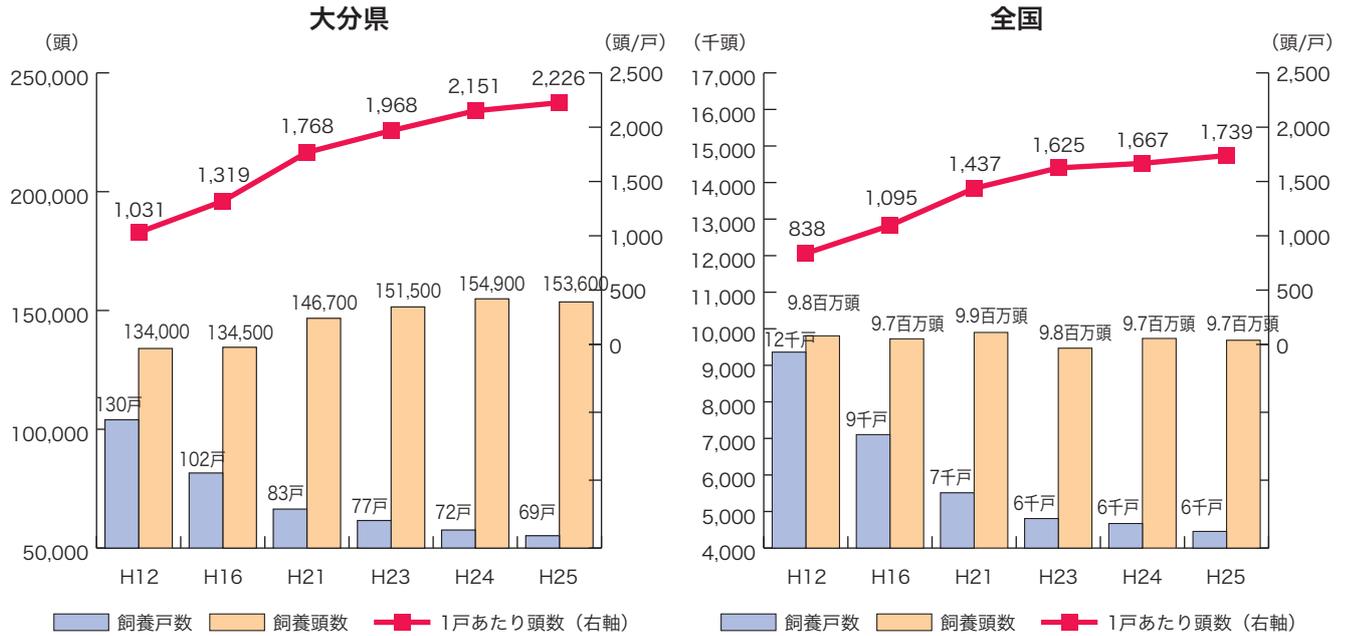
(注3) 受託生乳数量：酪農家が県酪協に委託して、九州生乳販売農業協同組合連合会に出荷した量。

(注4) 特定乳製品：全粉乳、脱脂粉乳、加糖粉乳、全脂加糖練乳、脱脂加糖練乳、全脂無糖練乳、バター及び子牛用の脱脂乳をいう。

(注5) 当該データはH23年度数値であり、農林水産省「牛乳乳製品統計」はH23年度数値であるため、両者は必ずしも一致しない。

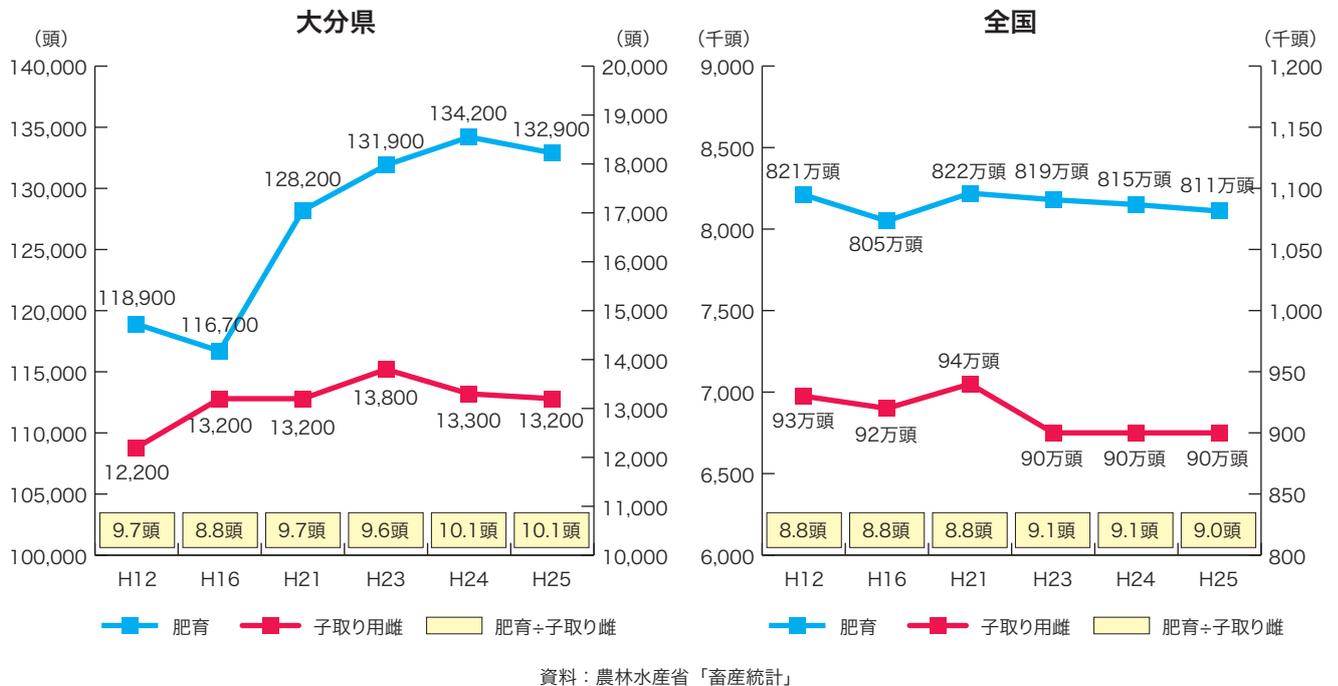
3. 豚

(1) 飼養戸数・頭数の推移



飼養戸数は69戸で前年に比べ3戸（4.1％）減少し、H12年比で53％まで減少したが、飼養頭数は153,600頭と、前年比1,300頭（0.8％）と微減になっている。
1戸あたり頭数においては、全国と比べ規模拡大が進み、H25年には2,226頭と、H12年比で209％と倍増した。

(2) 用途別頭数の推移



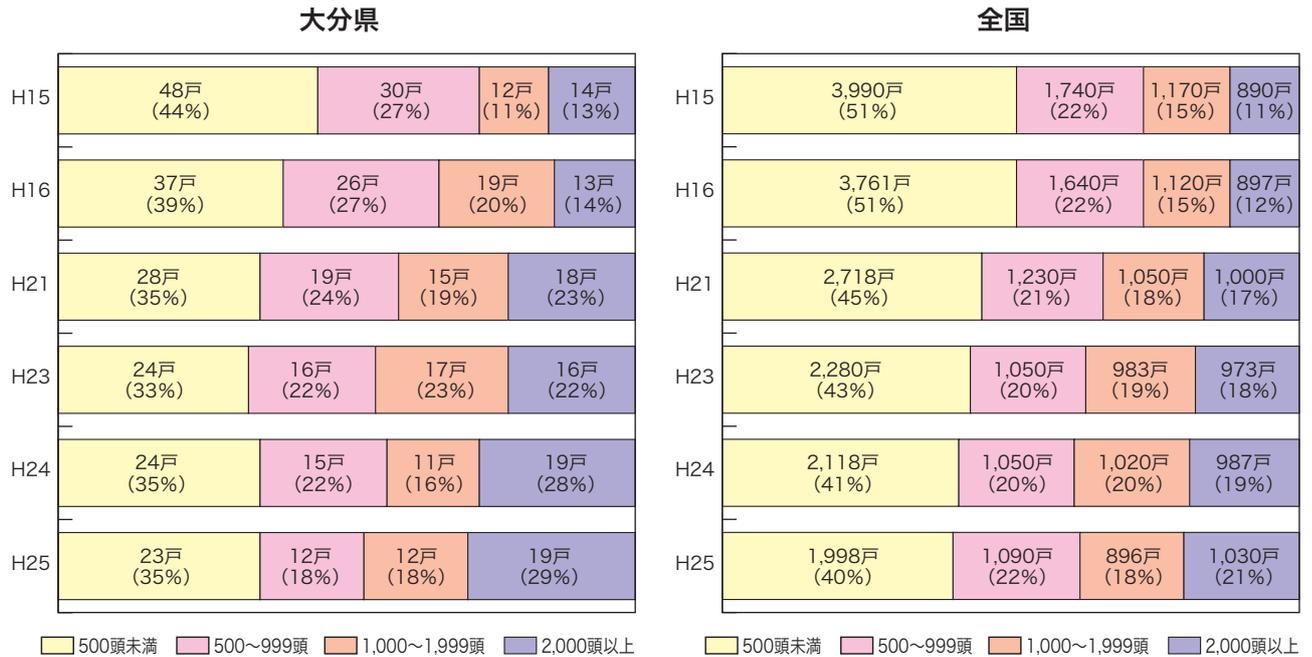
(注1) H17年及びH22年はセンサス実施年のため未公表

(注2) 子取り用めす豚とは生後6ヶ月以上で子豚を生産することを目的としているめす豚のこと。

実際には過去に種付けしたことのある豚及び近い将来種付けすることが確定している豚のこと。

子取り用めす豚は13,200頭で前年に比べ横ばいであったが、1戸あたりの飼養頭数は236頭で前年に比べ4.9％増加した。
肥育豚は132,900頭で前年比1.0％減少した。
肥育豚頭数を子取り用めす豚頭数を控除した値は全国平均を上回っている。

(3) 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数の推移

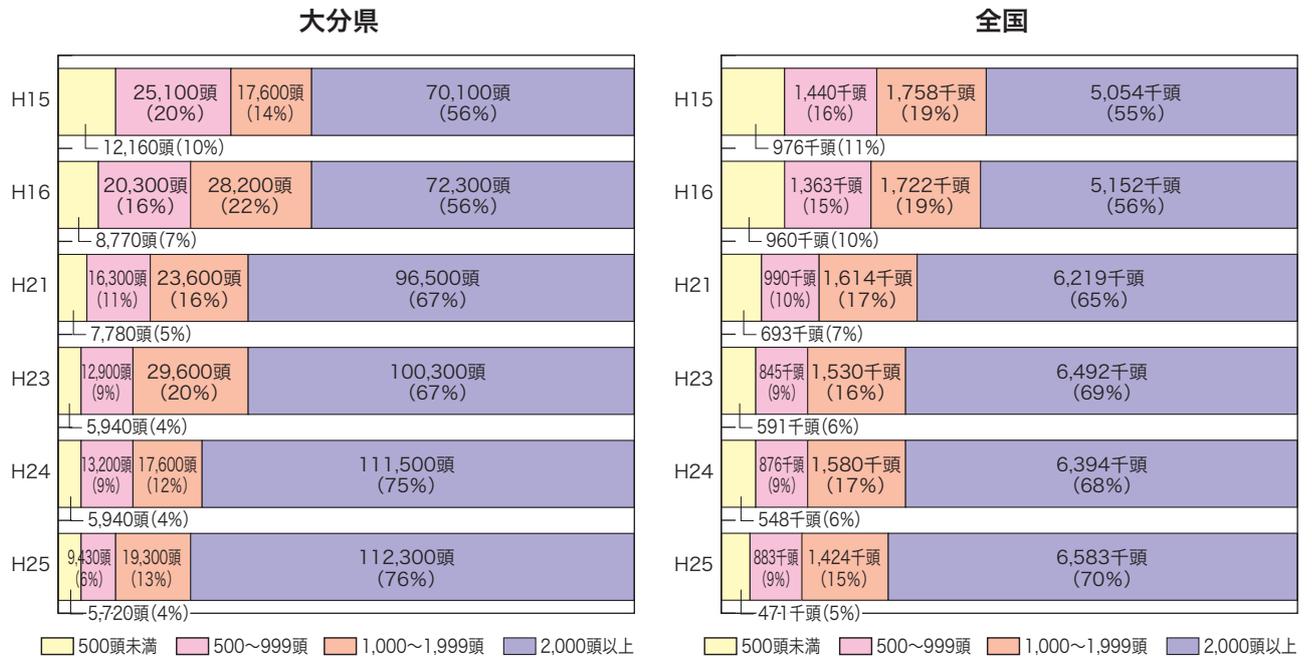


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 肥育豚：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。

2,000頭以上の規模農家戸数割合はH15年の13%からH25年は29%まで増加し、1,000頭未満の割合は、H15年からH25年まで徐々に減少している。
 2,000頭以上の農家戸数割合は、全国の21%より高く、大規模農家の割合が大きい。

(4) 肥育豚頭数規模別飼養頭数の推移

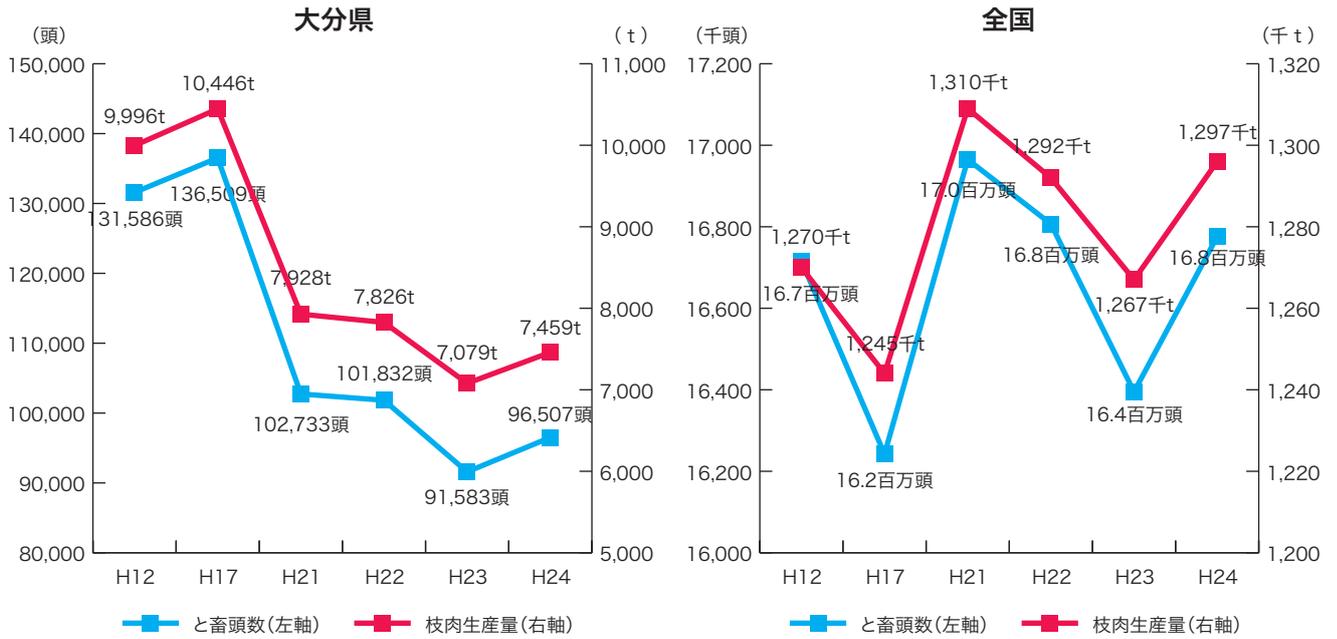


資料：農林水産省「畜産統計」

(注1) 肥育豚：肉豚として販売することを目的としている豚をいい、もと豚として販売するものは含まない。
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。

2,000頭以上の農家の飼養頭数割合は、H15年の56%からH25年には76%まで大幅に増加し、全国の70%より高く、規模拡大が進んでいる。

(5) 肉豚のと畜及び枝肉の生産状況

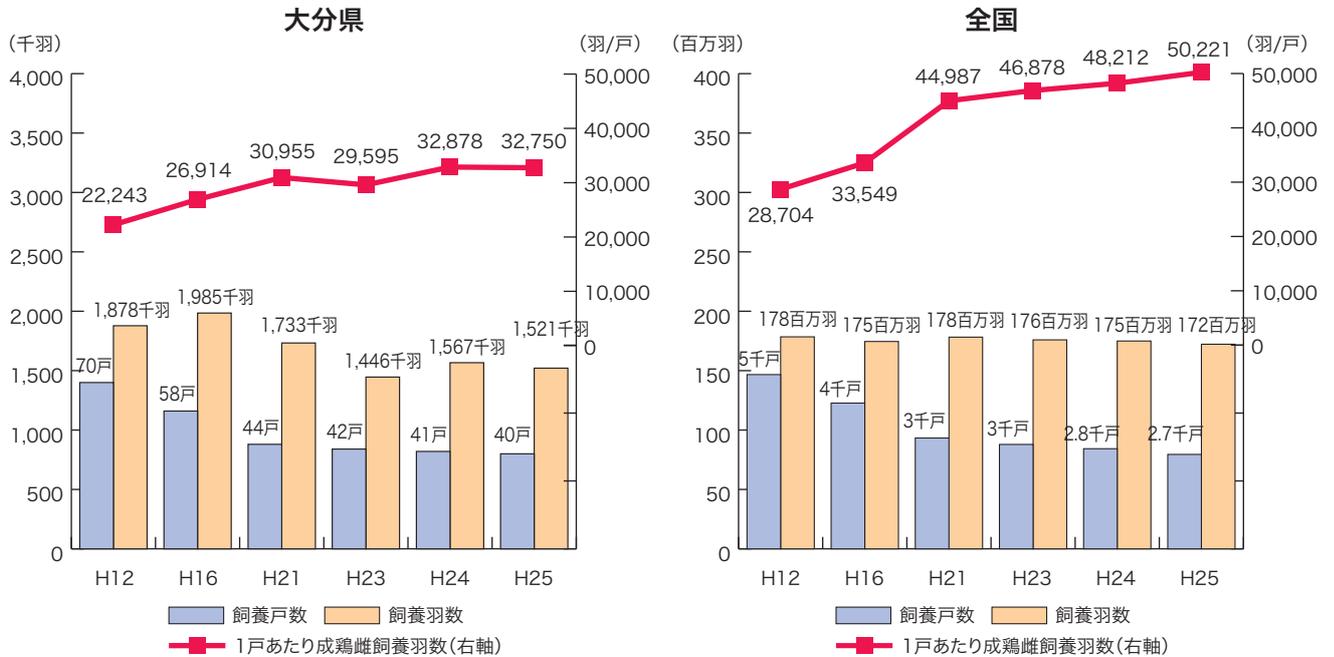


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

県内と畜頭数はH24年は96,507頭であり、前年に比べ4,924頭（5.3%）増加し、H12年比では73.3%まで減少している。一方で、県内肥育頭数はH25年は132,900頭であり、前年に比べ1,300頭（0.9%）減少したが、H12年比では111.7%まで増加している。

4. 採卵鶏

(1) 飼養戸数・羽数の推移

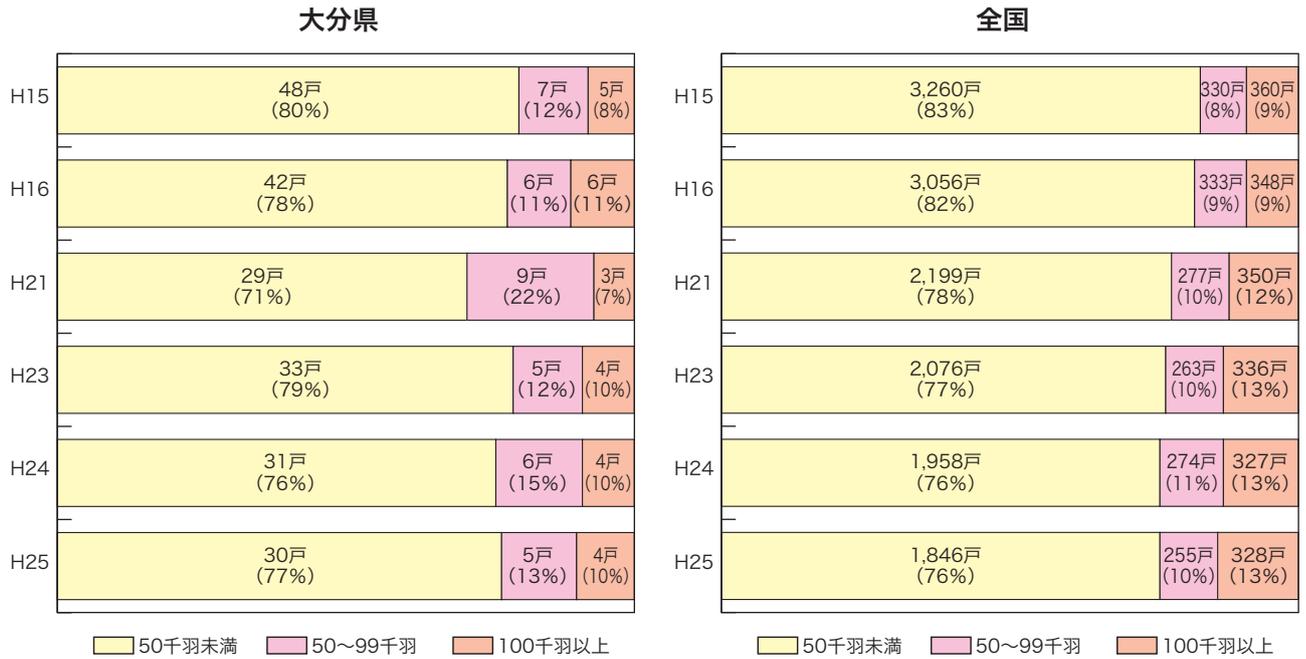


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注) 飼養戸数・羽数は種鶏のみの飼養戸数、種鶏の飼養羽数を除き、成鶏めす羽数は1,000羽未満の飼養戸数・羽数を除く。H17・22年はセンサス年のため調査無し。

H25年の飼養戸数は40戸と前年に比べ1戸減少し、飼養羽数は1,521千羽で同46千羽（2.9%）減少している。1戸あたり成鶏めす飼養羽数は、H25年は128羽（0.4%）減少し32,750羽となっている。一方、全国の1戸あたり成鶏めす飼養羽数はH25年には50,221羽であり、大分県を大きく上回っている。

(2) 成鶏めす羽数規模別飼養戸数の推移

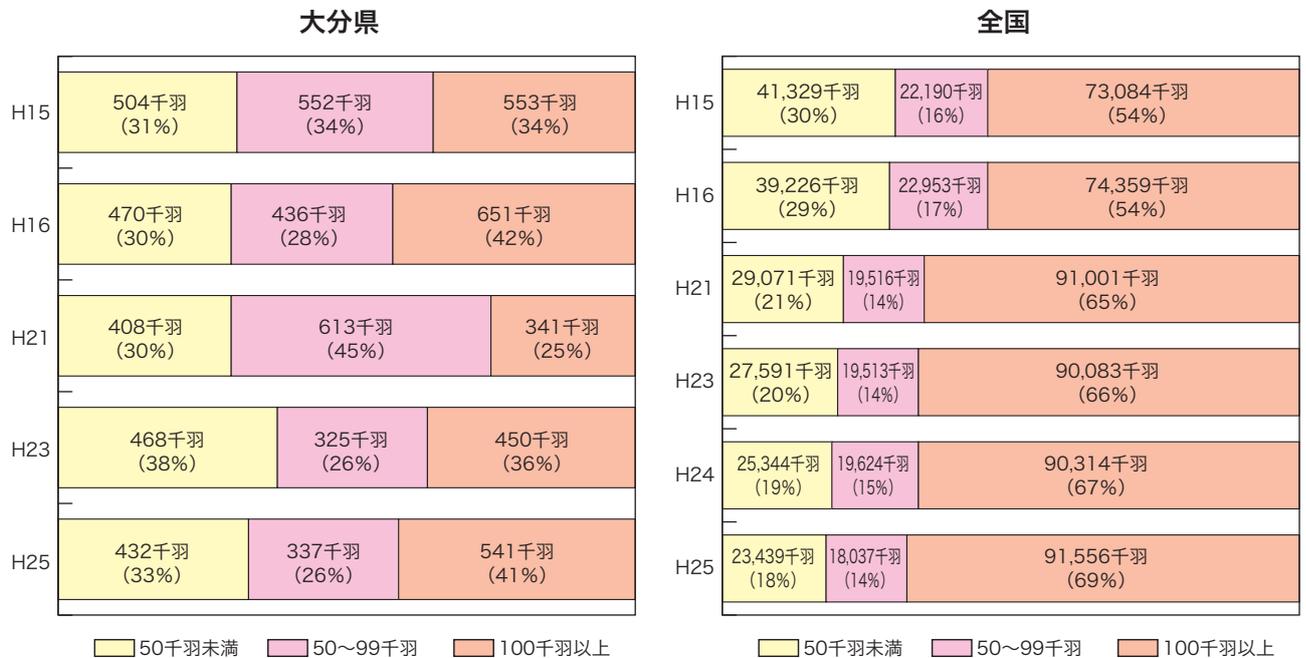


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。

年により若干の増減はあるものの、各階層の飼養戸数割合にはここ数年大きな変化はない。
 100千羽以上規模の大分県における戸数割合は、H25年時点で10%であり、全国（13%）を下回っている。

(3) 成鶏めす羽数規模別成鶏めす飼養羽数の推移

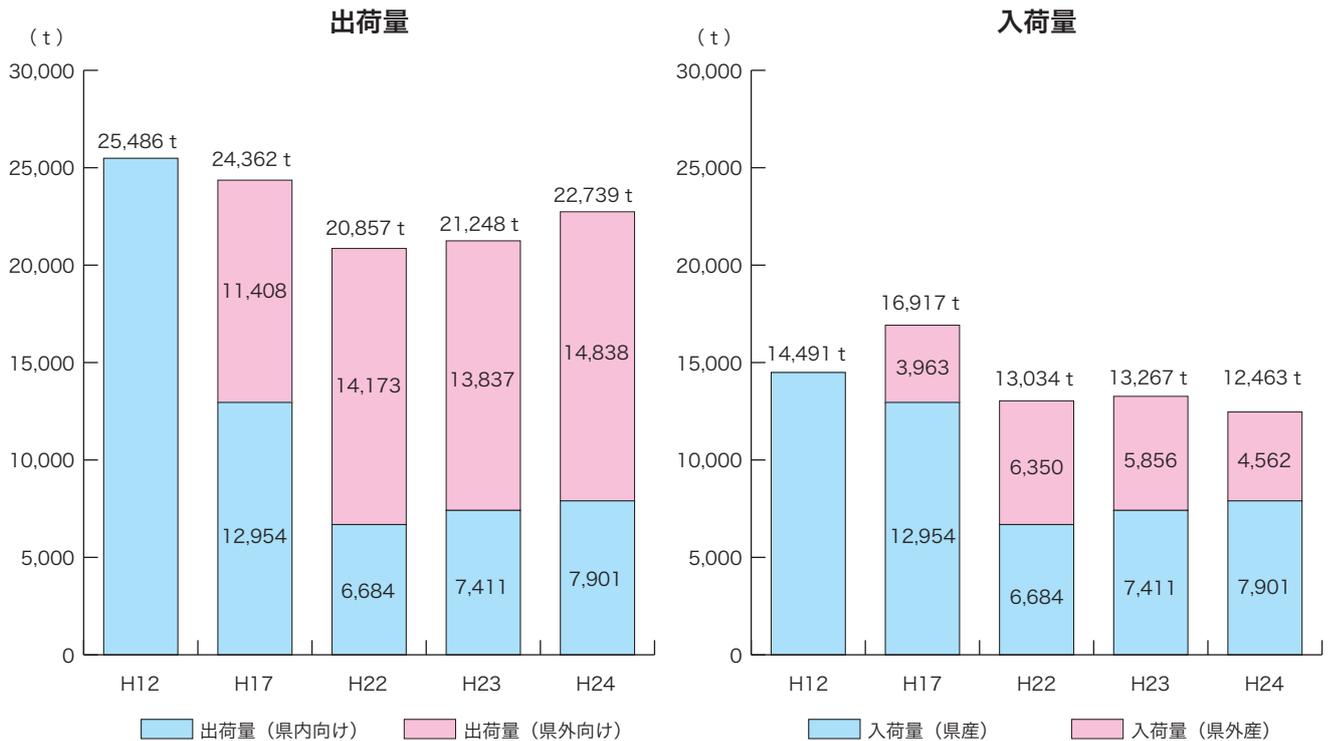


資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) 戸数には1,000羽未満の飼養戸数は含まない。
 (注2) 学校・県機関等の非営利的な飼養者は含まない。
 (注1) H24年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。

年によって増減はあるものの、特定の傾向を読み取ることはできない。
 全国的には緩やかながら規模拡大が進んでいる。
 大分県のH25年100千羽以上農家の羽数割合は41%であり、全国（69%）を大きく下回っている。

(4) 鶏卵の流通状況



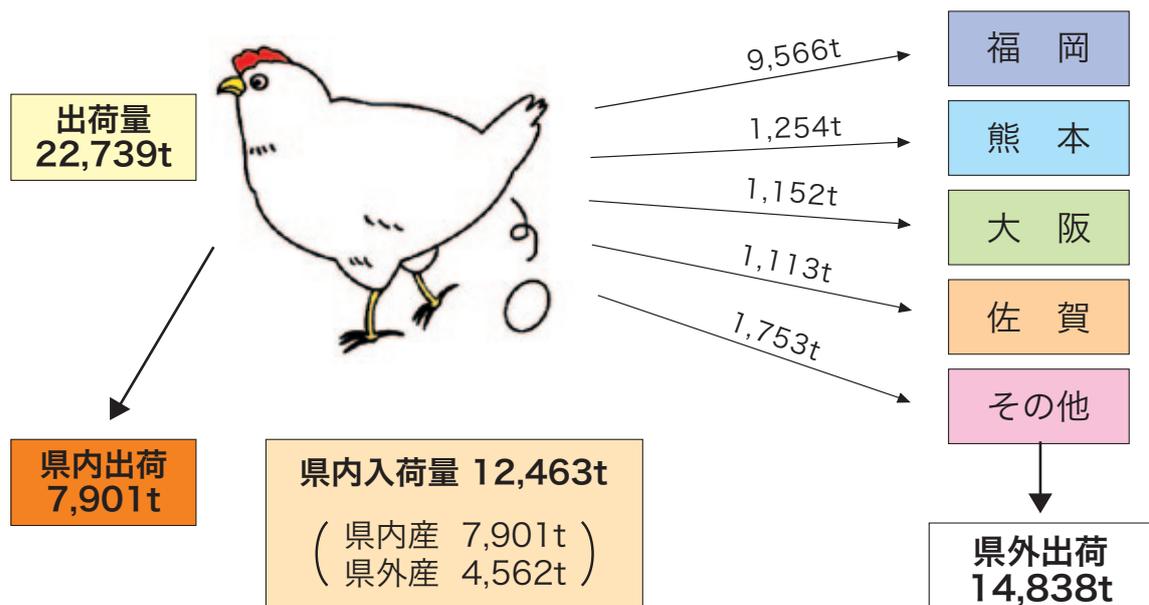
資料：農林水産省「畜産物流通統計」

(注1) H12年は県内、県外の別が分からないため、出荷量又は入荷量の合計のみを記載

(注2) 鶏卵生産量：一般用食用、加工用、種卵等として生産された鶏の卵をいう。

(注3) 鶏卵出荷量：一般用食品及び加工用として販売した鶏卵の数量をいい、生産者が自家消費した数量及び種卵、その他の数量は出荷量に含まれない。

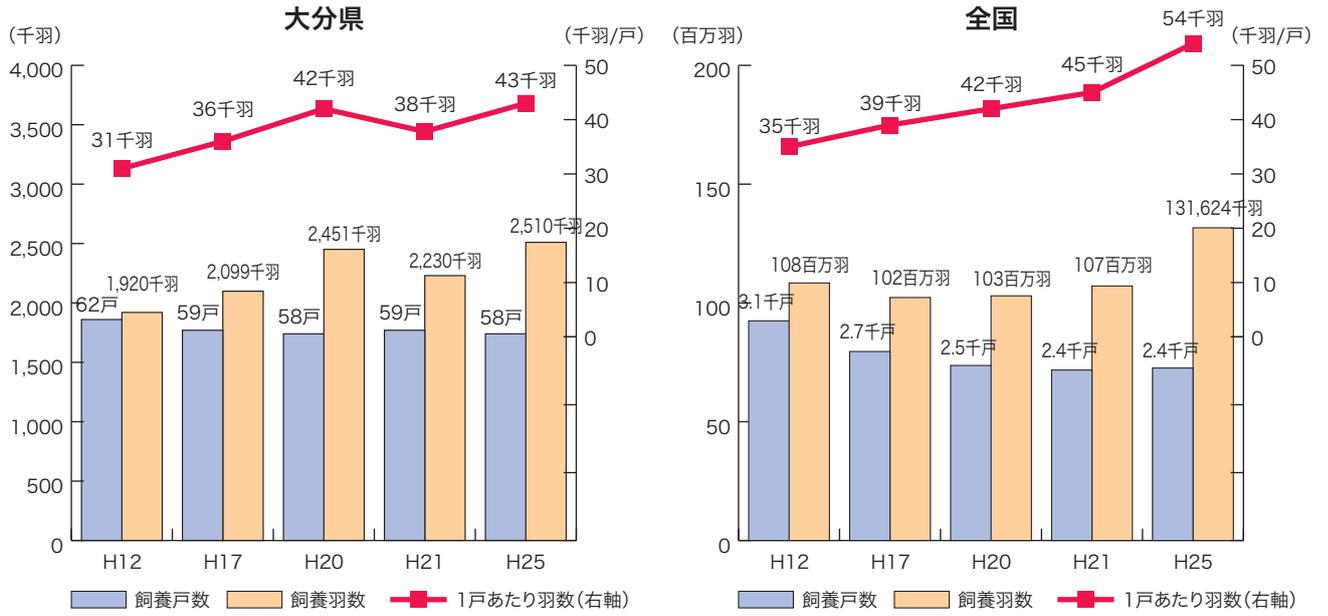
H24年出荷量は前年に比べ1,491t (7%) 増加しており、2年連続で前年を上回った。
 出荷量のうち過半数は県外向けであり、H24年は14,838tと全体の65%を占めている。
 入荷量は減少傾向にあり、H24年は前年に比べ804t (6%) 減少している。
 入荷量に占める県外産の割合はH24年で36%と前年に比べ大きく下がった。



資料：農林水産省「畜産物流通統計」

5. ブロイラー

(1) 飼養戸数・羽数の推移

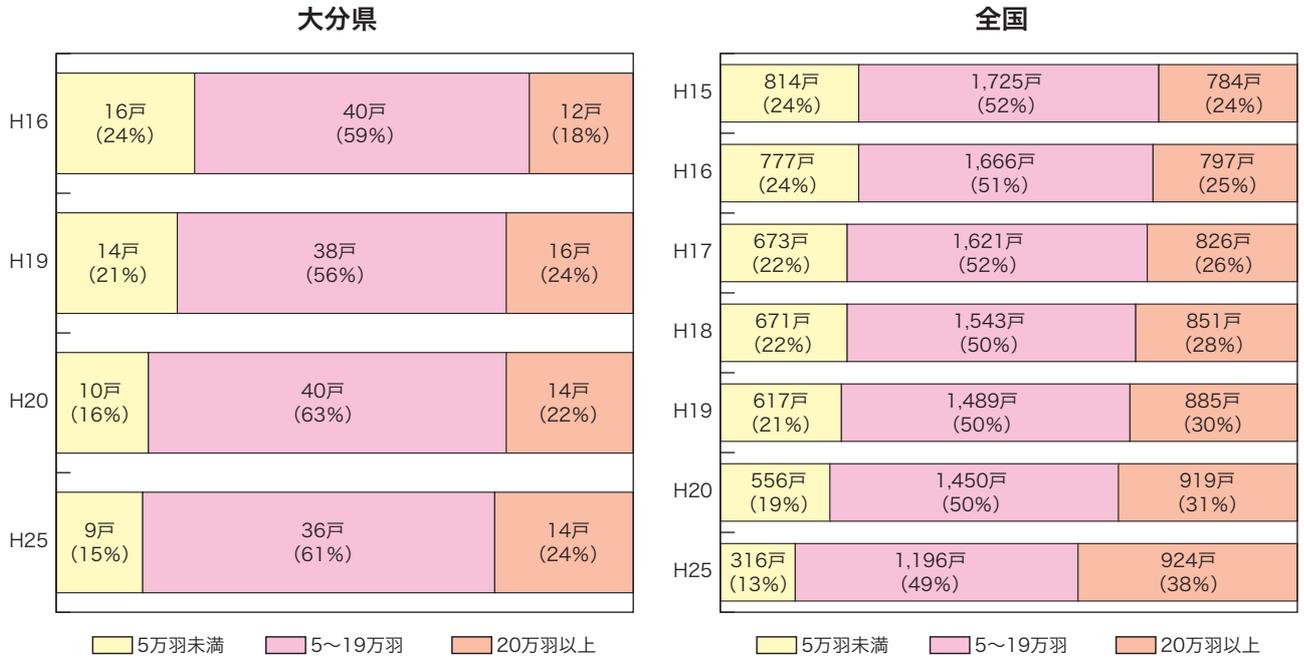


資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) この統計は、2月1日現在のブロイラー飼養戸数及び飼養頭数を調査したもので、一時的に鶏舎消毒のためオールアウトしていた等により、ブロイラーを飼養していない飼養者は除外したものである。
 (注2) H22年からH24年までは調査は行われなかったが、H25年から再開されている。

飼養戸数に大きな変化はないものの、飼養羽数はH21年からH25年にかけて280千羽(12.5%)、1戸あたり飼養羽数も5千羽/戸(13.1%)増加している。
 ただし、全国の方が飼養羽数(22.8%増)、1戸あたり飼養羽数(20%増)共に増加幅が大きい(いずれもH21年比H25年数値)。

(2) 出荷羽数規模別出荷戸数の推移

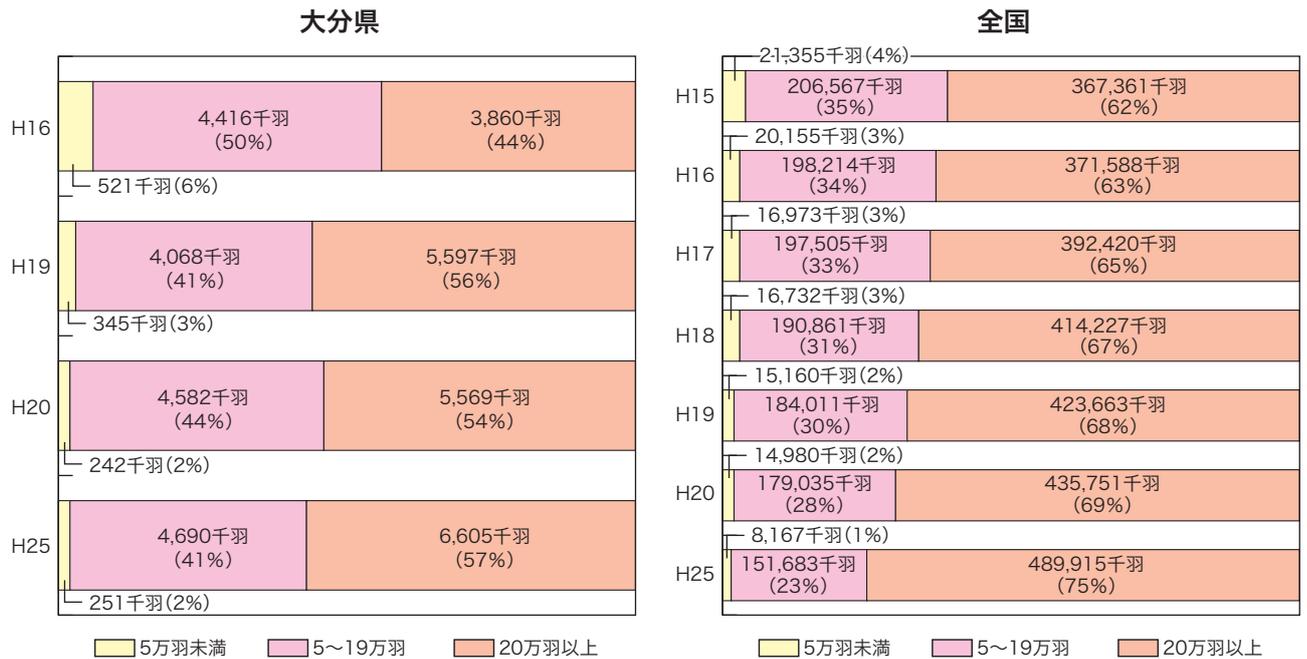


資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) H15,H17,H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。
 (注2) H21年からH24年は調査が行われなかったが、H25年から再開されている。

H25年の20万羽以上規模の戸数は14戸とH20年と比べて増減していない。
 全国ではH25年に924戸とH20年に比べ15戸増加しており、規模拡大が進んでいる。

(3) 出荷羽数規模別出荷羽数の推移



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) H15,H17,H18年大分県数値は、一部に非公表数値があったためグラフから除外。当該非公表は少数調査農家の秘密保護を目的として行われるもの。
 (注2) H21年からH24年までは調査は行われなかったが、H25年から再開されている。

H25年の20万羽以上規模農家の飼養羽数は6,605千羽であり、H21年に比べ1,036千羽（18.6%）増加している。
 全国では489,915千羽となり、H21年に比べ54,164千羽（12.4%）増加している。



第三者継承に向けたコーディネート会議（左上写真）及び現地検討会（右上写真）

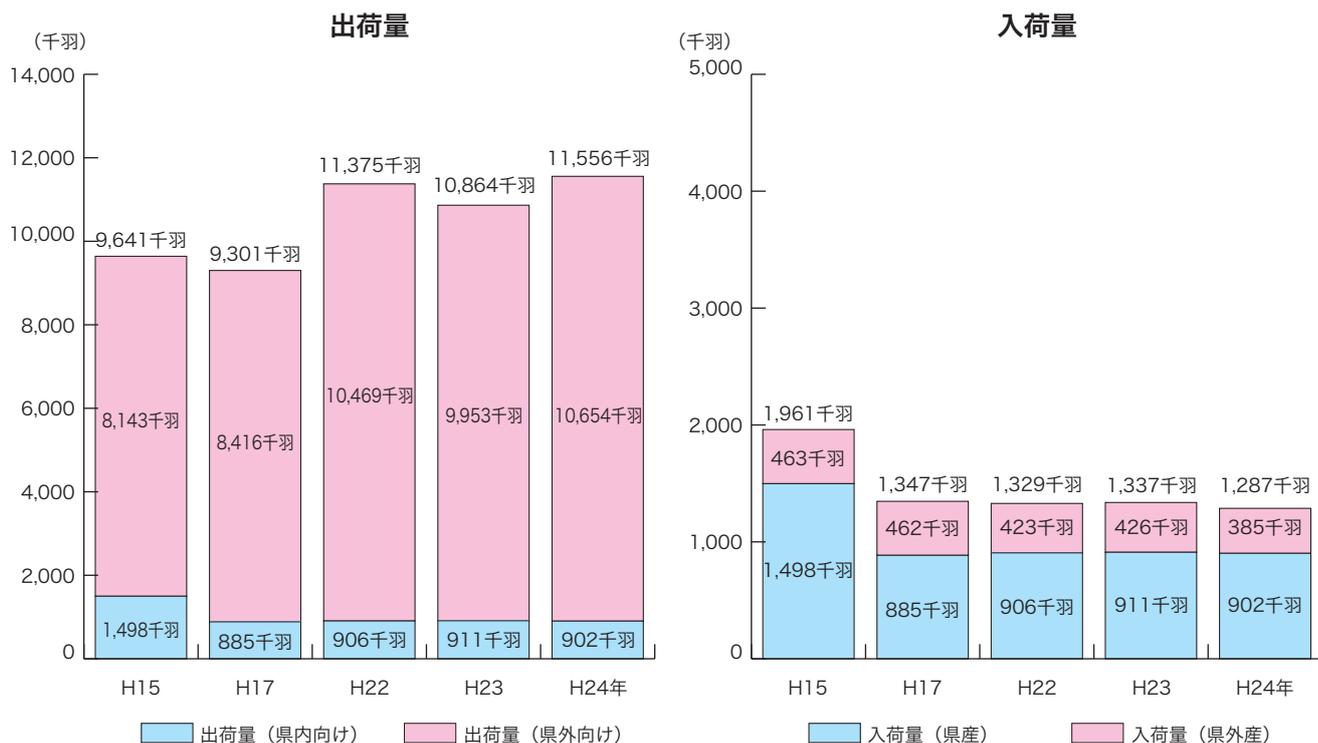


おおいた豊後牛in香港プロモーション



大阪南港市場でもオレイン酸の測定を開始

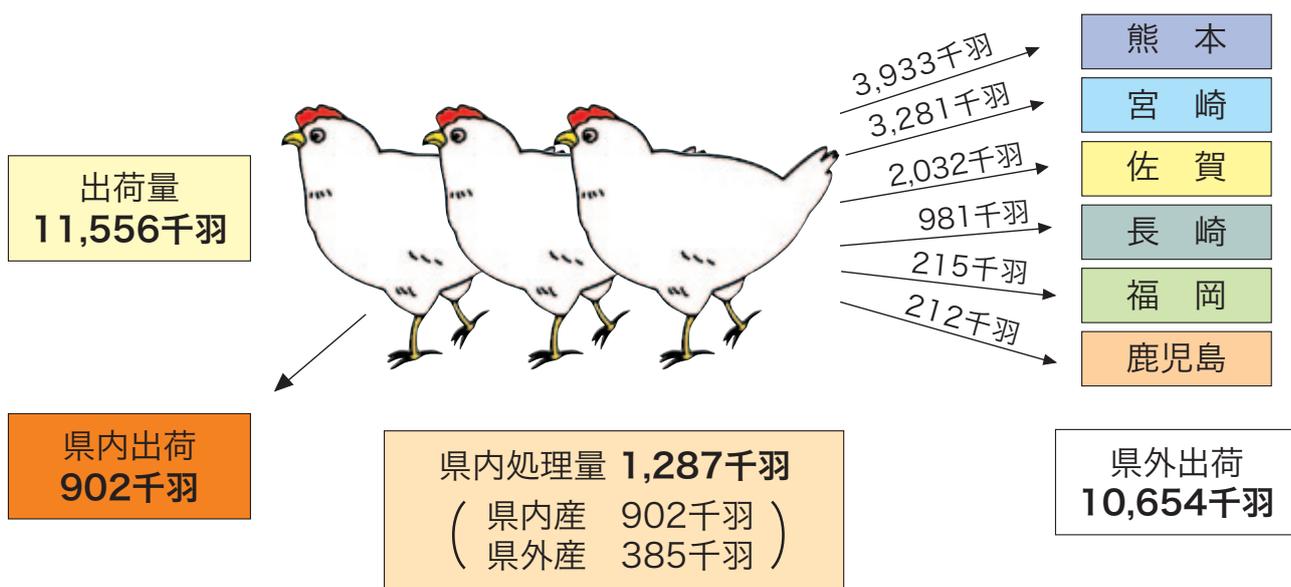
(4) ブロイラーの流通状況



資料：農林水産省「食鳥流通統計」

(注1) 出荷量：飼養から食用に供するために食鳥処理場へ出荷された食鳥（生体）をいい、生産者が自家消費した量は含まれない。
 (注2) 食鳥処理上：食用に供する目的でと鳥処理を行っている事業所（飼養者が自家用としている場合は含まない）のこと。

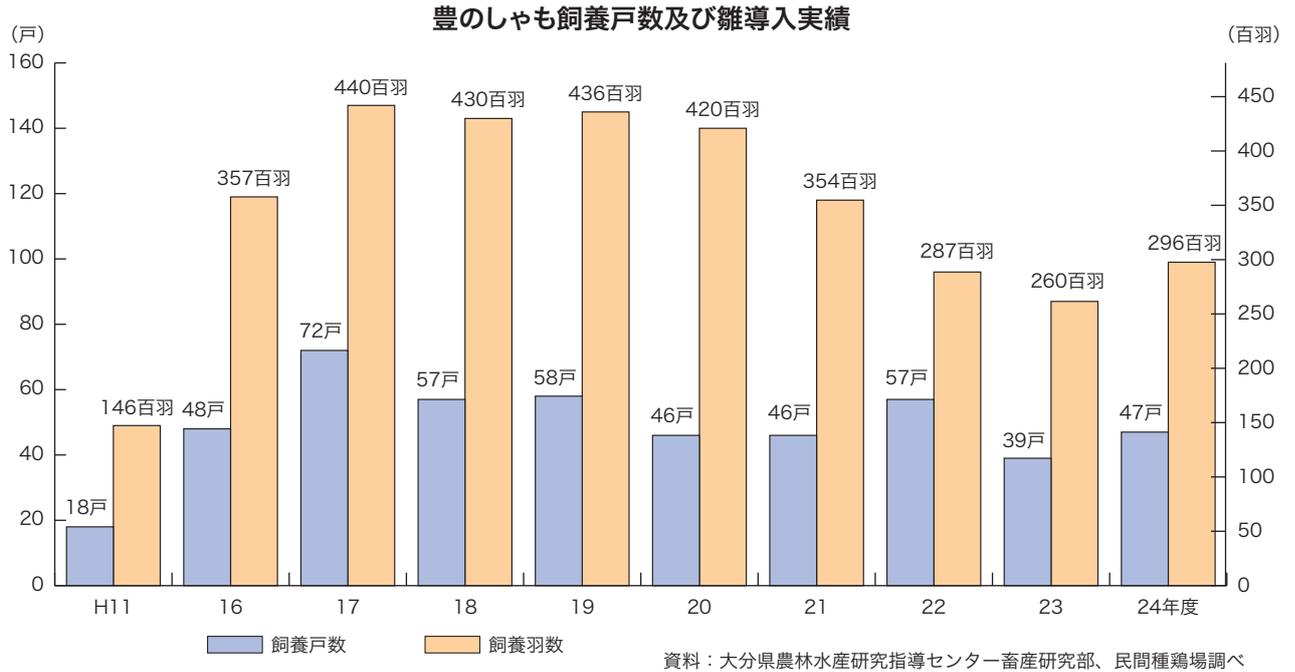
出荷量はH24年が11,556千羽であり、前年に比べ692千羽（6.3%）増加している。
 出荷先は県外が主であり、24年の県外割合は92.1%となっている。
 入荷量はここ数年、横ばいであり、H24年は1,287千羽と前年に比べ50千羽（3.7%）減少している。



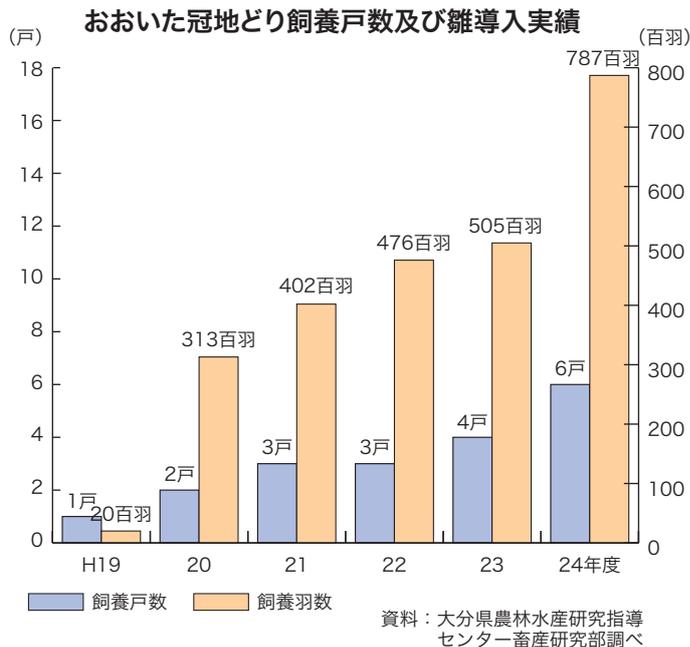
資料：農林水産省「食鳥流通統計」

6. 地鶏

(1) 豊のしゃも



(2) おおいた冠地どり



(3) 地鶏取扱店

①豊のしゃも取扱店 (H24.8現在)

- ・県内販売店 15店 (12店：125%)
- ・県内料理店 39店 (36店：108%)
- ・県外販売店 8店 (1店：800%)
- ・県外料理店 24店 (22店：109%)
- 計 86店 (71店：121%)

※()内はH22年10月時点の店舗数及びH22年10月からH24年8月にかけての伸び率

②おおいた冠地どり取扱店 (H24.8現在)

- ・県内量販店 52店 (41店：127%)
- ・県内料理店 233店 (169店：138%)
- ・県外量販店 21店 (1店：2100%)
- ・県外料理店 39店 (16店：244%)
- ・その他 61店 (56店：109%)
- 計 406店 (283店：143%)

※()内はH22年8月時点の店舗数及びH22年8月からH24年8月にかけての伸び率 (%)

①豊のしゃも

飼養戸数は47戸であり、前年に比べ8戸(20.5%)増加しており、飼養羽数は296百羽と36百羽(13.8%)増加している。

H17年のピークに比べ、飼養戸数で65.2%、飼養羽数で67.2%まで減少している。

②おおいた冠地どり

H24年度の飼養羽数は787百羽であり、前年に比べ282百羽(55.8%)増加している。

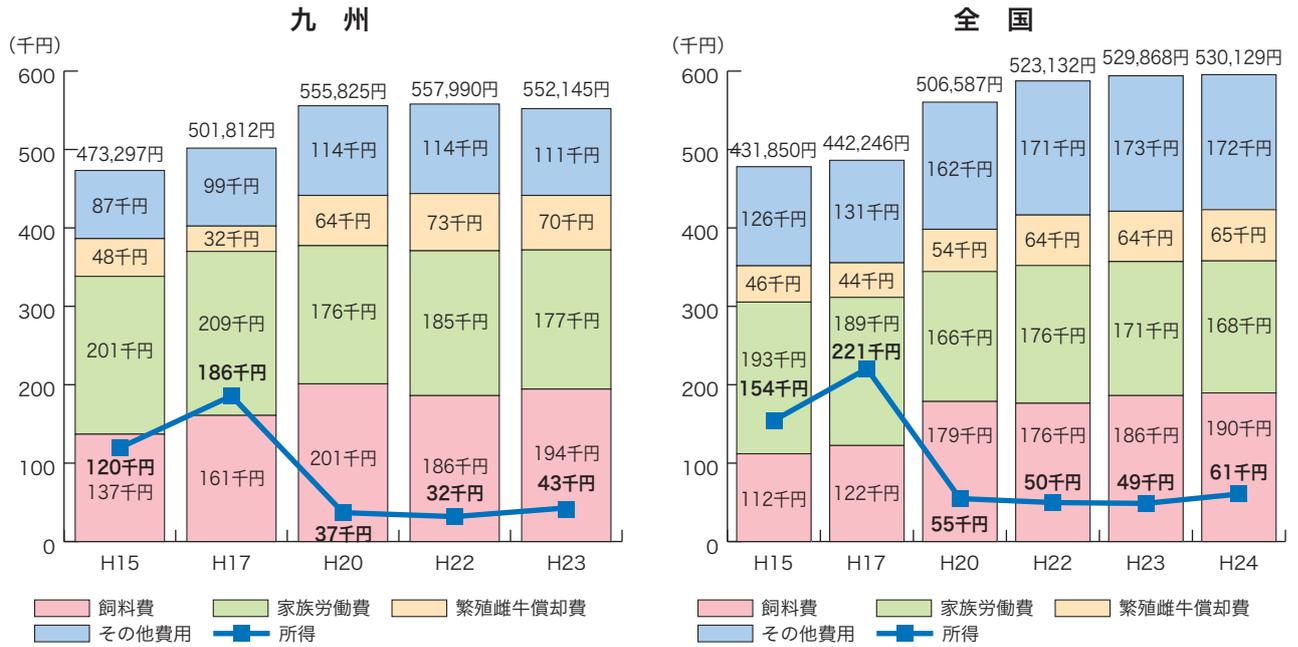
飼養戸数もH24年に2戸増え、6戸となっている。

③地鶏取扱店

豊のしゃも取扱店、おおいた冠地どり取扱店共に、H22年に比べ増加しているが、特におおいた冠地どり取扱店の伸びが大きく県内外合計で400店舗を超えている。

7. 生産費と所得の推移

(1) 子牛の生産費（子牛1頭あたり）と所得（繁殖雌牛1頭あたり）の推移

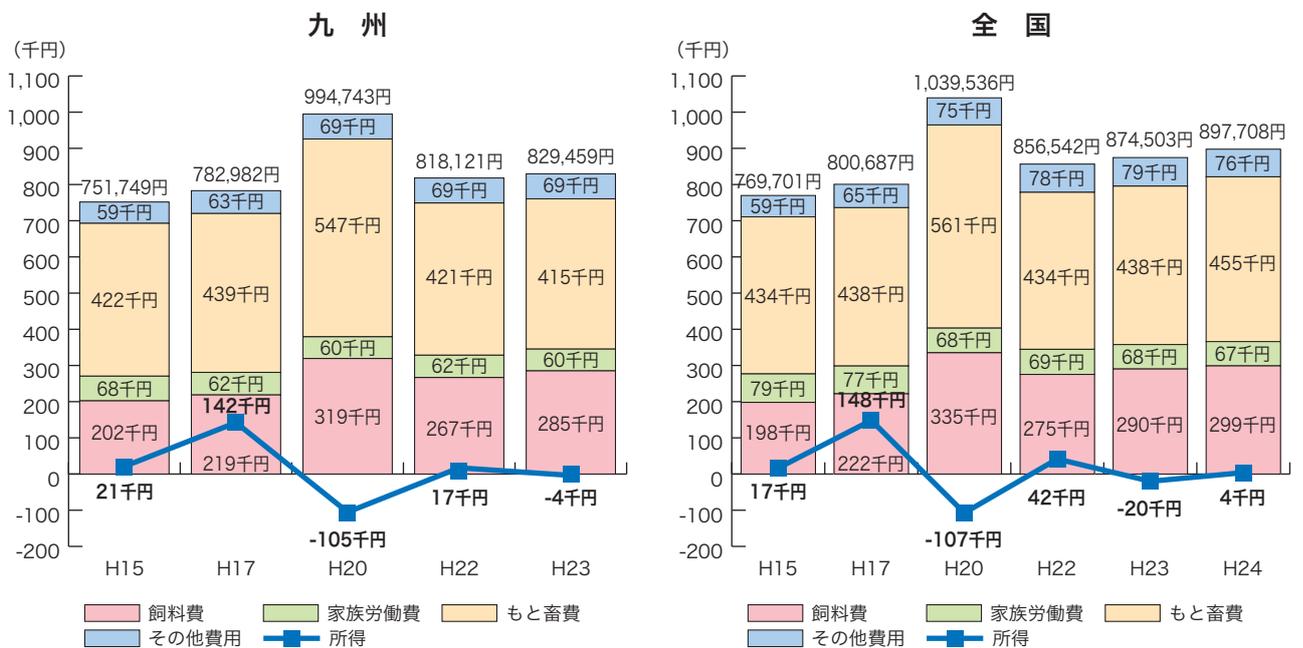


資料：農林水産省「経営統計」

(注) 大分の畜産 2013 作成時点において、H24 年数値は全国数値のみ公表され、九州の数値は公表されていない。

H23年の生産費合計は552,145円であり前年に比べ5,845円（1%）減少し、所得は42,881円であり同11,106円（35%）増加している。近年の動向として最も顕著なのは飼料費の高騰であり、H23年飼料費は194,447円とH15年と比べて57,537円（42%）高くなっている。H23年について全国と比較すると、九州は生産費が22,277円高く、所得は5,752円低くなっている。

(2) 肥育牛生産費と所得の推移（去勢肥育牛1頭当たり）

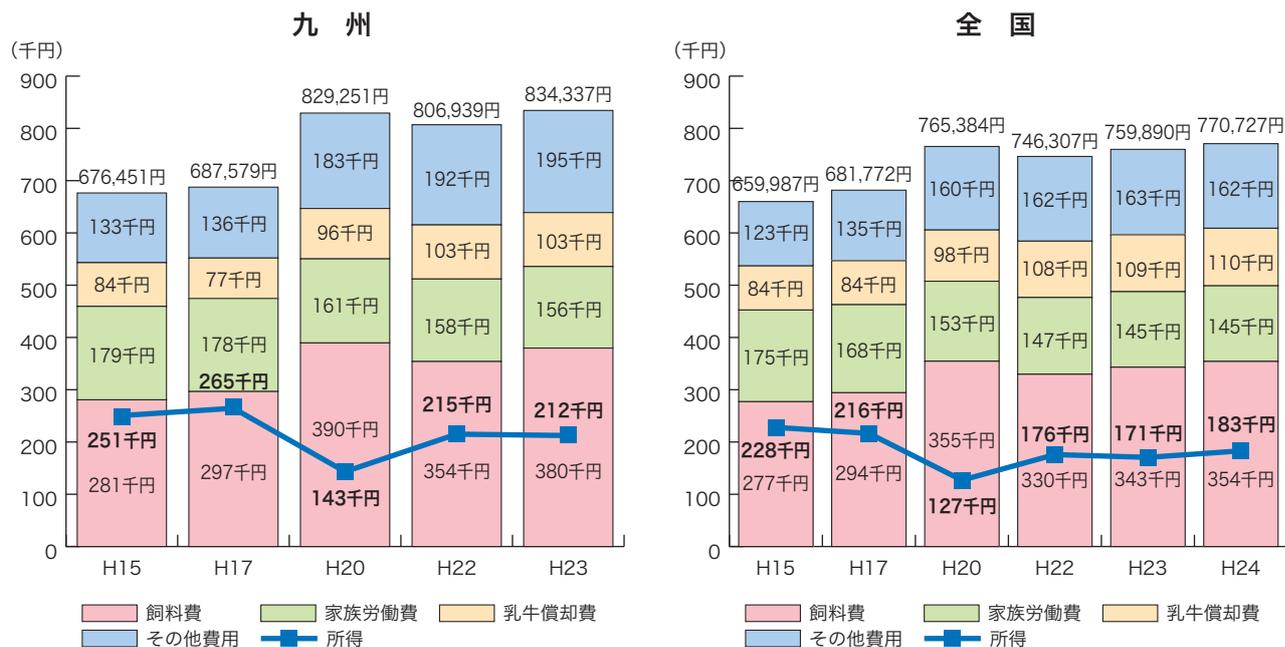


資料：農林水産省「経営統計」

(注) 大分の畜産 2013 作成時点において、H24 年数値は全国数値のみ公表され、九州の数値は公表されていない。

H23年の生産費は829,459円であり、前年に比べ1,138円（1.4%）増加し、所得は▲3,805円と同21,011円減少し赤字となっている。生産費で最も大きな割合を占めるもと畜費が前年比5,478円（1.3%）減の415,262円となる一方、飼料費は18,415円（6.9%）増加しており、飼料費の増加が所得を圧迫している。H23年所得は全国が九州を大きく下回る▲20,081円となっており、飼料費だけでなくもと畜費も増加したことが所得の減少に反映されている。H24年(全国数値のみ公表)は飼料費、もと畜費共に増加するものの、粗収益も増加していることから所得は改善している。

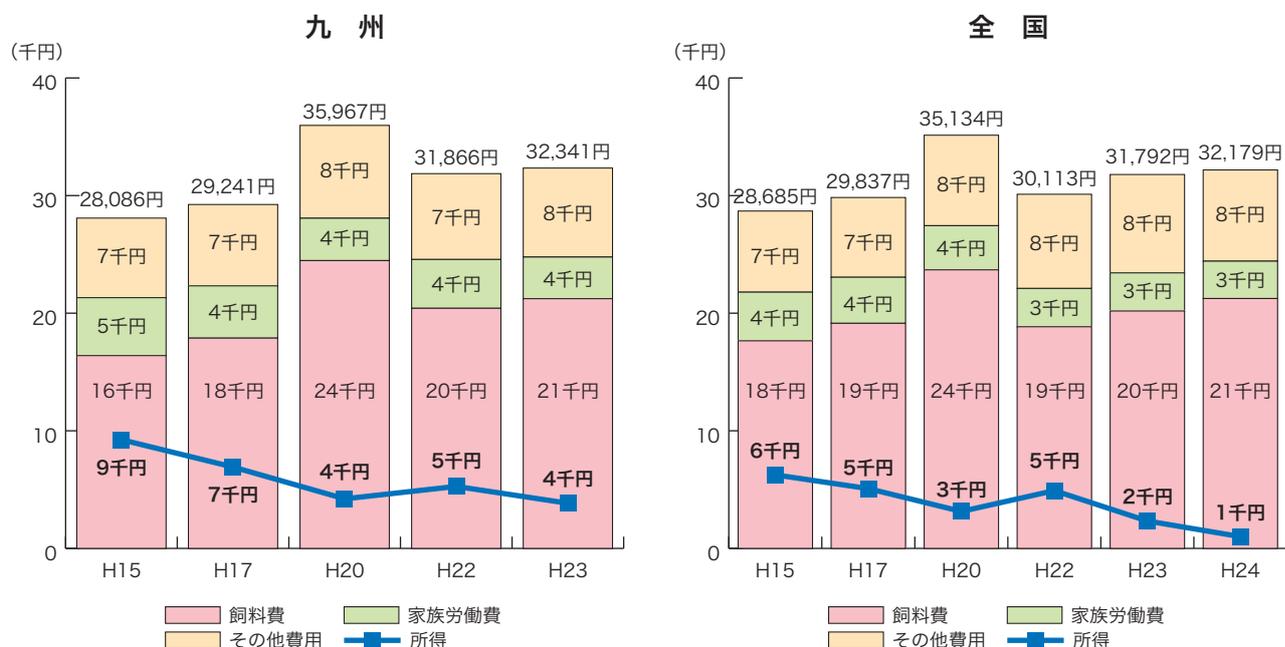
(3) 生乳生産費と所得の推移（搾乳牛通年換算1頭当たり）



資料：農林水産省「経営統計」

H23年の生産費合計は834,337円であり、前年に比べ27,398円（3.4%）増加し、所得は212,311円と同2,712円（1%）減少している。
九州の生産費は全国に比べ高くなっているが、所得についても全国を上回っている。
H24年(全国数値のみ公表)は飼料費が増加したものの、粗収益も増加したことから所得は183,019円と12,415円(7%)増加している。

(4) 肥育豚生産費と所得の推移（肥育豚1頭当たり）

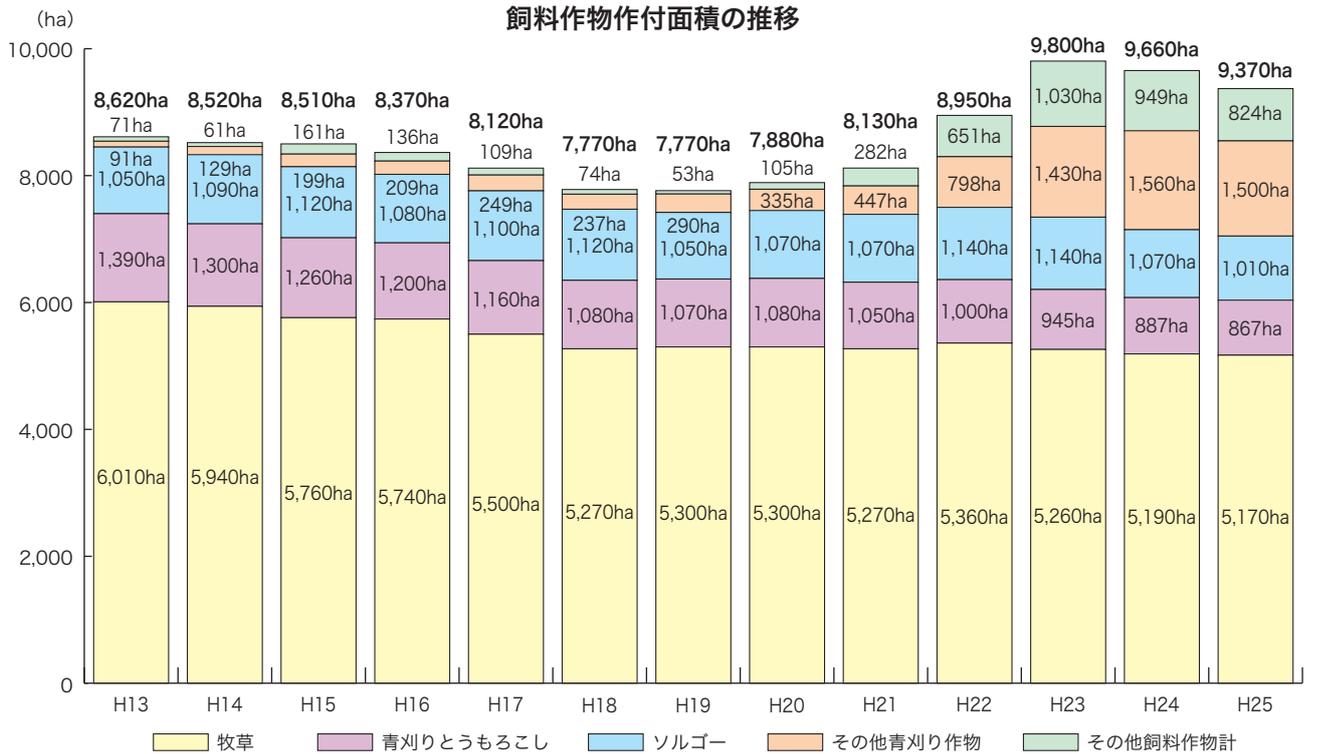


資料：農林水産省「経営統計」

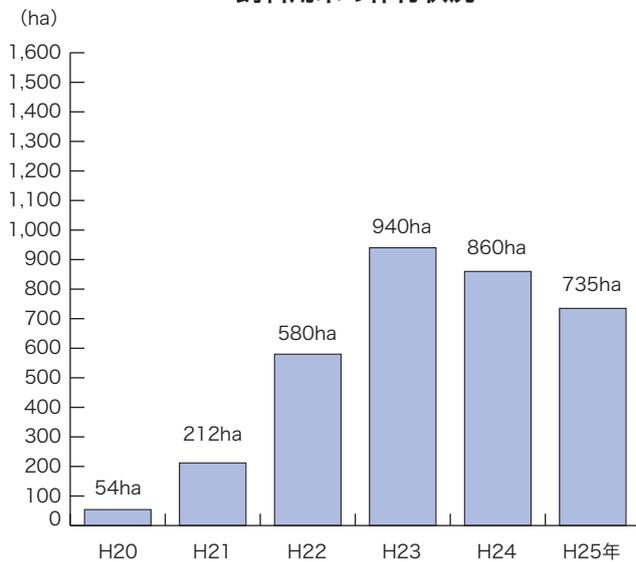
H23年の生産費合計は32,341円であり、前年に比べ475円（1.5%）増加し、所得は3,841円と同1,430円減少している。
養豚経営の生産費では飼料費が占める割合が最も大きく、H23年で65.7%を占めている。
H24年（全国数値のみ公表）は飼料費が増加したため、所得が減少している。

Ⅲ 飼料

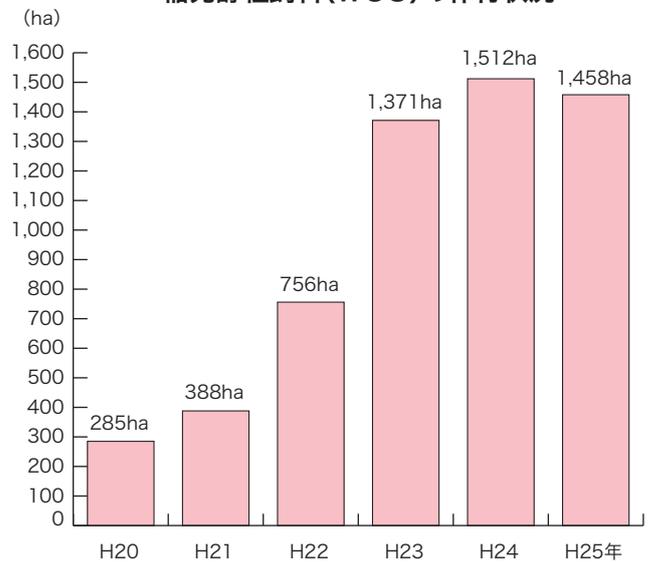
1. 飼料作物作付状況



飼料用米の作付状況



稲発酵粗飼料(WCS)の作付状況



(正誤) H24年数値は「大分の畜産2012」で示されたものから、飼料用米、稲発酵粗飼料(WCS)共に下記の通り修正
 【飼料用米】誤：870ha → 正：860ha 【稲発酵粗飼料(WCS)】誤：1,514ha → 正：1,512ha

資料：畜産技術室調べ

①飼料作物作付面積

H25年の作付け面積は9,370haであり、前年に比べ290ha(3%)縮小し、2年連続で減少している。

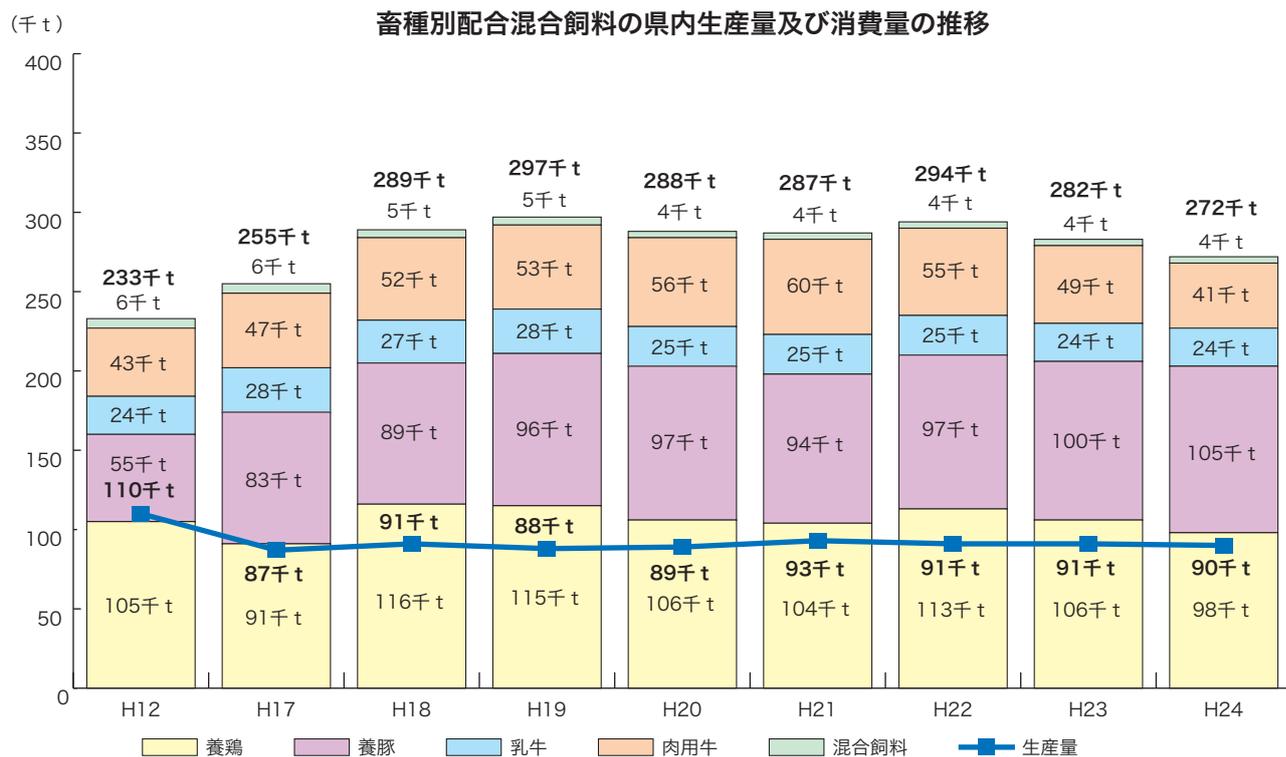
②飼料用米の作付状況

H20年より右肩上がりで作付面積の拡大が進んできたが、H25年は735haであり、前年に比べ125ha(14.5%)減少する見通しとなっている。

③稲発酵粗飼料(WCS)作付状況

H25年の作付面積は1,458haであり、前年に比べ54ha(3.5%)減少している。

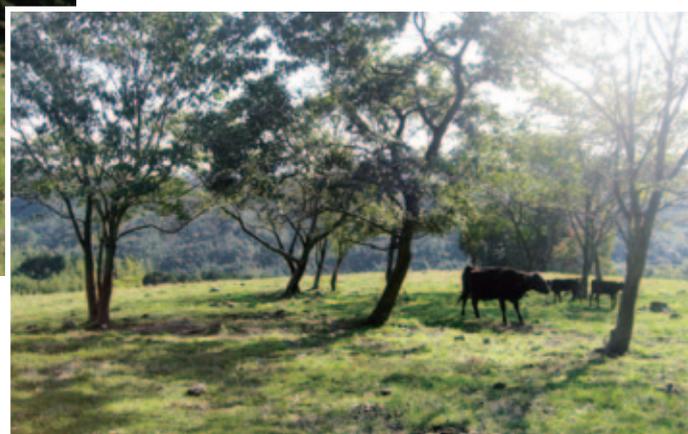
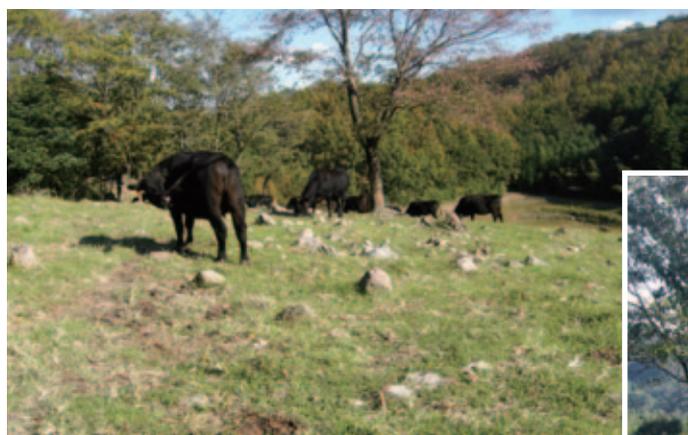
2. 配合混合飼料



資料：飼料月報

(注) 混合飼料：行政や流通の上から、ある特定成分の補給又は輸入関税の免税措置を受けられることを目的に製造される配合飼料の一種。
 配合飼料：2種類以上の飼料原料を一定の割合で混合した物。我が国では一般に家畜・家きんの種類や飼料目的に応じて、必要な養分を十分含むように市販されているものが多い。
 四捨五入の関係で内訳の計は必ずしも総数に一致しない。

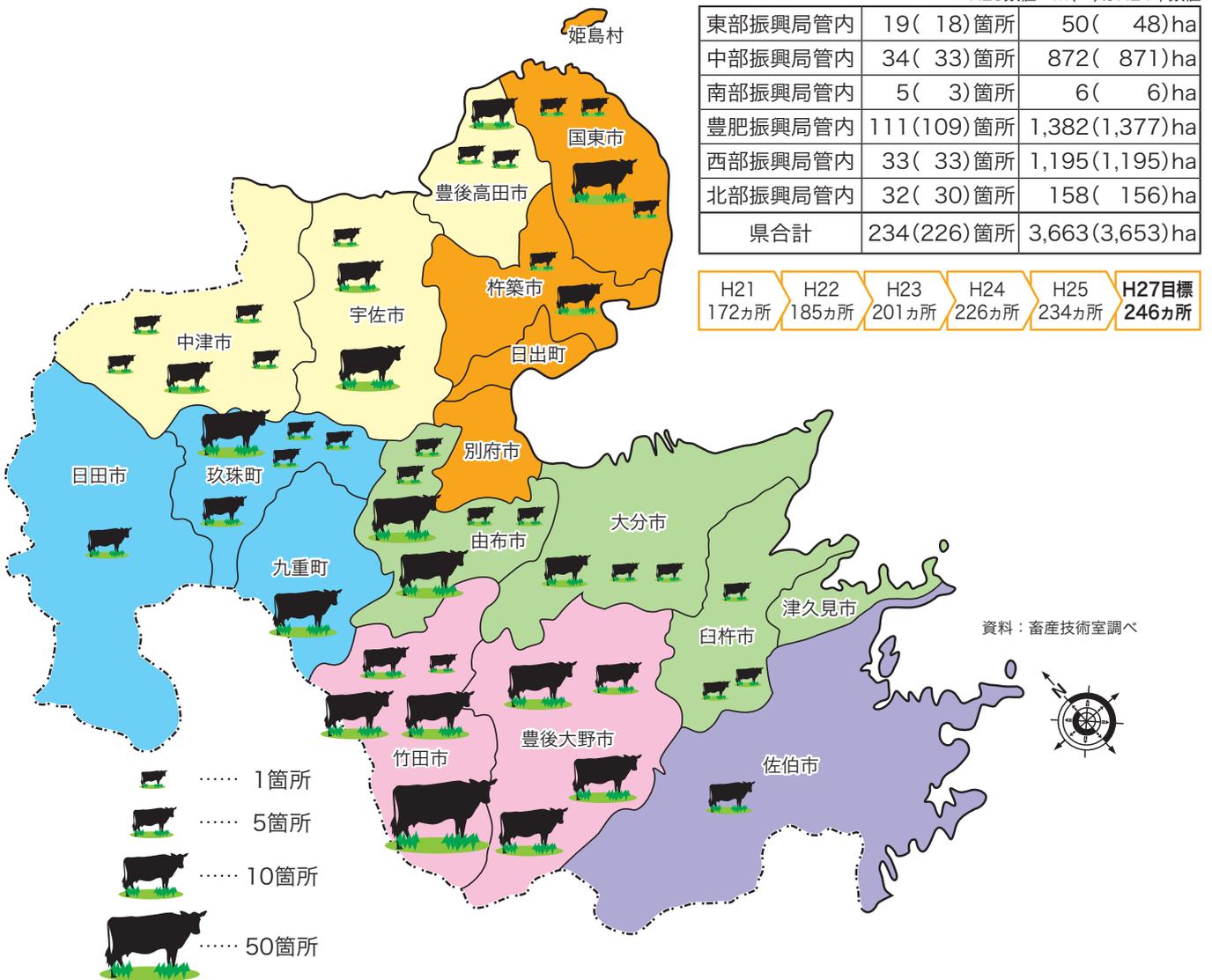
県内の全畜種における配合混合飼料の総消費量はH19年以降減少傾向にあり、H24年はH23年比96.5%の272千tまで減少している。
 畜種別の消費量は肉用牛、乳牛、養鶏で飼養頭羽数の減少により消費量は減少傾向にあるが、養豚は飼養頭数の増加により消費量がH21年以降増加している。
 また、配合混合飼料の県内生産量は、ここ数年ほぼ横ばいとなっている。



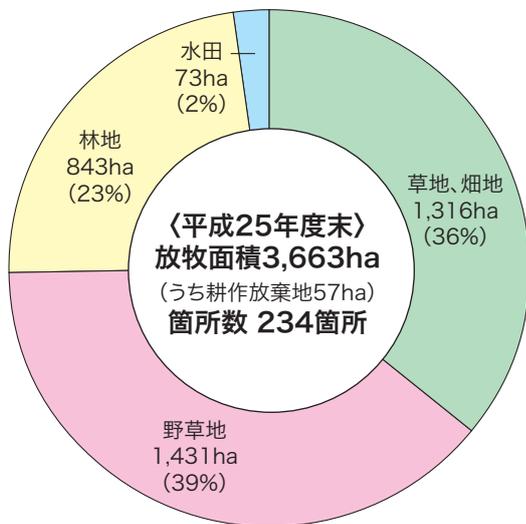
耕作放棄地を有効活用した
 低コスト・省力的な周年放牧の実践

3. 放牧取組状況

(1) 大分県における「おおいた型放牧」分布図



(2) おおいた型放牧面積の地目別内訳



おおいた型放牧は耕作放棄地の解消や、繁殖雌牛の飼養管理の省力化を目的として、近年、導入地区が大きく増えている。特に耕作放棄地解消を目的に集落単位で取り組む例が多く、地目別面積の内訳でも野草地1,431ha (39%)と林地843ha (23%)で全体面積の半数以上を占めている (62%)。



牧草が定着した放牧地（耕作放棄地を活用）

IV 家畜衛生・畜産環境

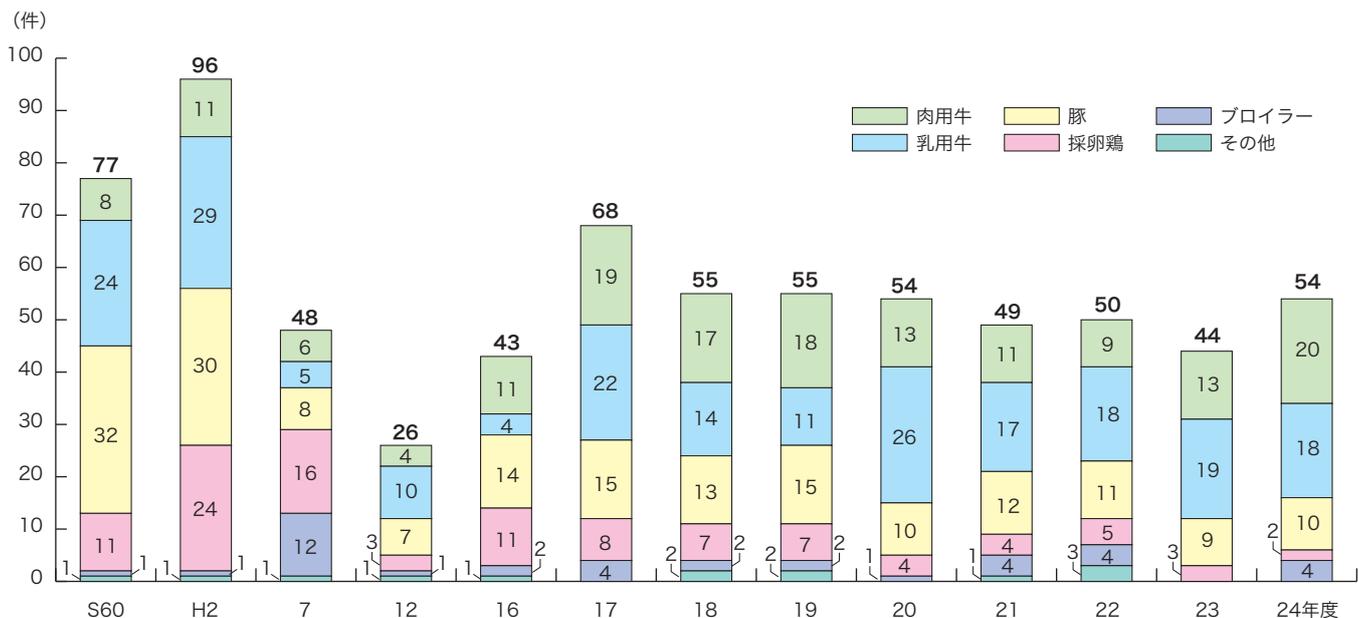
1. 監視伝染病の発生状況

区分	監視伝染病																																					
	法定伝染病										届出伝染病																											
	炭疽	結核病	ヨ―ネ病	性馬貧血	豚コレラ	ツヌルカ	ネラ感染症	家きんサルモ	高病原性鳥インフル	ふそ病	TSE	アカバネ病	鼻気管炎	牛伝染性	牛白血病	ルス感染症	アイノウイ	病イバラ	破傷風	気腫疽	ネオスポラ症	下痢粘膜炎	牛ウイルス性	キ―エス	胃腸炎	性下痢	豚丹毒	サルモネラ症	マレック病	気管炎	伝染性喉頭	ロイコトゾン	鶏痘	悪性カタル熱	レプトスピラ症	豚PRRS	豚赤痢	
牛・豚	牛	牛	馬	豚	鶏	鶏	鶏	鶏	豚	羊	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	牛	豚	豚	豚	豚	牛・豚	鶏	鶏	鶏	鶏	牛	犬	豚	豚				
S50				2	1,697				291										10																			
51			1		120				80																													
52																																						
53																																						
54																																						
55																									1,843													
56																																						
57	1																							4,011														
58					19,427				66															1,584		1												
59									3																10													
60									113																37													
61									29																5													
62																19	3								14													
63																								16														
H元						2,276													2					15														
2		1							10										3					18														
3																								12														
4																								14														
5																								12														
6																								12														
7																								12														
8																								11														
9			3												2									17														
10											11	1	17	2									6															
11											21		31	10					2				4	2	69	1,600												
12													19						1	8	1			2														
13			1										11						2					3												1	2	
14			1										24											42	110											1		
15			13									14	61						1		2		150	127	48	2												
16			8					7	1			3	53					1	1	1	1		76	4												1		
17			2										49										84	5	9													
18			10						1		12	71											102	3	6												4	
19			5								1	30											66															
20			5									38											90	9														
21			9								2	42											149	5											2	7		
22			6						1			1	44										136	2												1		
23			9							1		1	52										57	2														
24			4										30										43	7														

※印の疾病は平成9年度まで法定伝染病
資料：畜産振興課調べ

2. 環境汚染問題畜種別発生件数

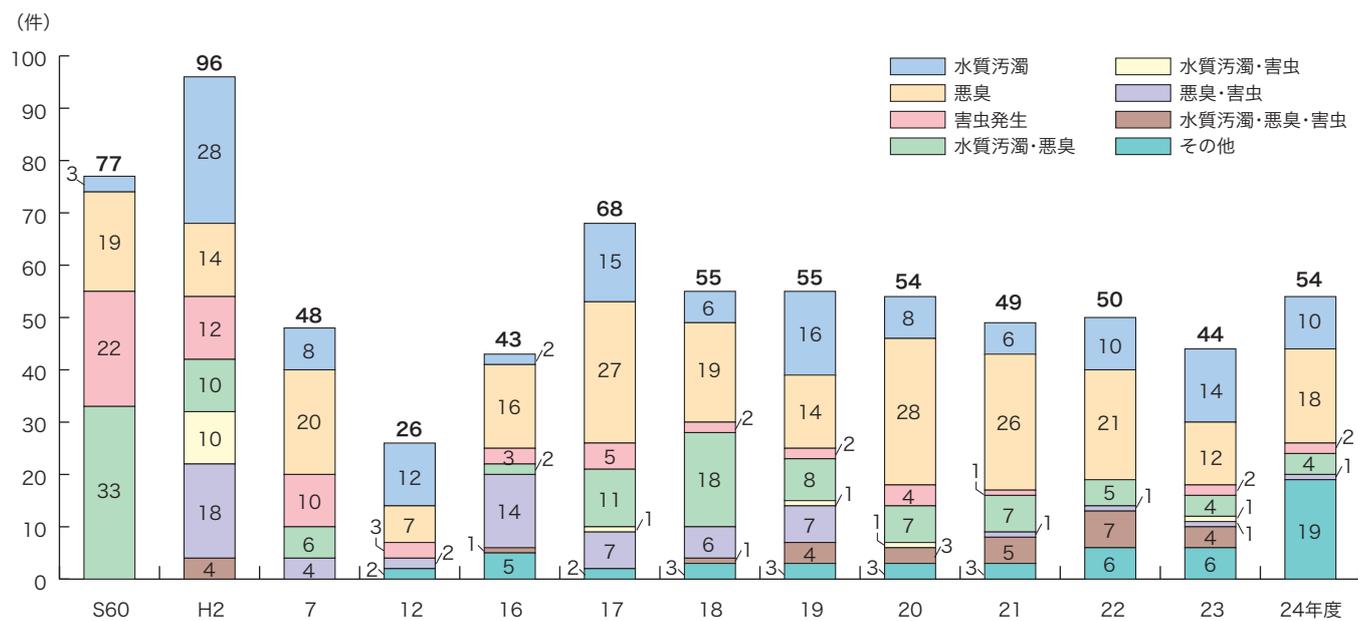
(1) 畜種別苦情発生件数



(注) 各年度の調査期間は当該年度の7月から翌年の6月までである。

畜産振興課調べ

(2) 種類別苦情発生件数



(注) 各年度の調査期間は当該年度の7月から翌年の6月までである。

畜産振興課調べ



防疫演習 県総合対策本部会議



防疫演習 現地演習

V 平成 26 年度大分県畜産関係補助事業等（抜粋）

当該ページでは、大分県畜産関係予算のうち主要なものを掲載・紹介しています。

全てのメニュー等を網羅しているものでも、採択基準の全てを示しているものでもありませんので、詳細等については各振興局生産流通部企画・流通班(南部振興局にあっては企画・流通・畜産班)又は、各担当班であつてお問い合わせいただけるようお願いいたします。

1 畜産振興課関係補助事業等

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	おおいた豊後牛流通総合対策事業	・ 県産和牛ブランド確立推進事業	おおいた豊後牛の認知度向上のための活動等に対して助成 【事業主体】 大分県豊後牛流通促進対策協議会	肉用牛推進班
肉用牛養豚	県域食肉流通センター整備支援事業	・ 産地食肉センター整備事業(強い農業づくり交付金) ・ 肉畜流通改善体制整備事業	食肉の衛生品質の向上や部分肉処理頭数の拡大、輸出拡大等を目的とした、国際化に対応した輸出可能な食肉処理施設の整備及び集荷体制強化等を支援。 【事業主体】 (株)大分県畜産公社	畜産企画班
肉用牛養豚	畜産物価格安定対策事業	・ 肉用牛肥育経営安定対策事業 ・ 生産者積立金助成事業 ・ 肉用子牛生産者補給金制度 ・ 肉豚価格安定対策事業	畜産経営の安定を目的として、肥育牛・肉豚では粗収益が生産費を下回った場合、子牛では販売価格が合理化目標価格を下回った場合の補給金等を交付するための生産者積立金の造成を支援。 【事業主体】 (公社) 大分県畜産協会	畜産企画班
肉用牛	肉用牛担い手支援事業	・ 緊急雇用肉用牛人材育成事業(肉用牛ゼミナール・ヘルパー育成プログラム・ヘルパー養成研修)	肉用牛生産の分業化や6次産業化、国際化等に対応した経営感覚のある経営者の人材育成プログラムや、肉用牛経営を支えるヘルパー育成のための担い手人材育成プログラムに対して支援。 【事業主体】 (公社)大分県畜産協会、農業協同組合等	畜産企画班
		・ 肉用牛ゼミナール支援事業	食肉の需要動向に応じた生産やブランド化の取組を支える人材育成を目的として、肉用牛ゼミナールの受講生を対象に実施する県外での流通研修に対する支援。 【事業主体】 (公社)大分県畜産協会	畜産企画班
全般	獣医師確保対策事業	・ 獣医師確保特別修学資金給付事業 ・ 獣医系大学インターンシップ事業	獣医師確保を目的とした、大学卒業後に大分県内で公務員獣医師又は産業動物診療獣医師になることを条件とした給付金の給付や、家畜保健衛生所等県機関でのインターンシップに係る経費に対する補助。 【事業主体】 (公社)大分県畜産協会	衛生環境班

2 畜産技術室関係補助事業等

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	肉用牛繁殖産地活性化モデル事業	・ 産地活性化支援	繁殖雌牛の地域内預託飼育システム導入や放牧地の活用促進等、大規模経営体の育成に係るモデル的な取組や、これらモデル的な取組の推進に係る活動等に対する支援。 【事業主体】 市町村等	食肉鶏卵班
肉用牛	肉用牛大規模経営体育成事業	・ 肉用牛生産施設整備事業(畜舎等の整備支援・省力的生産体系整備支援) ・ 家畜伝染病防疫施設整備支援	豊後牛増頭3ヶ年計画に基づき、持続的かつ安定的な経営を目指し生産規模を拡大する農家の施設整備及び機械整備に対する助成。 【事業主体】 市町村等	食肉鶏卵班
肉用牛	おおいた豊後牛供給体制確立事業	・ 繁殖対策(繁殖雌牛増頭対策) ・ 肥育対策(肉質向上対策)	生産規模の拡大に取り組む肉用牛繁殖農家等の、オレイン酸生成能力及び産肉能力に優れた繁殖雌牛の導入を支援する他、補助飼料等を活用し、枝肉中の脂肪の質(オレイン酸含有率)の向上に取り組む肉用牛肥育農家を支援。 【事業主体】 (繁)市町村(肥)市町村及び農業協同組合	食肉鶏卵班
		・ 肉用牛経営安定化対策	肉用牛経営の安定化を目的として、飼養管理技術の向上や大規模経営体育成のための研修会等の開催に対して支援。 【事業主体】 おおいた肉用牛振興協議会	食肉鶏卵班

2 畜産技術室関係補助事業等（前ページからの続き）

品目	事業名	事業区分	採択基準・事業概要等	担当班
肉用牛	スーパー豊後牛 作出対策事業	・肉用牛育種改良推進事業委託 事業	生産者組織や関係機関が一体となって肉用牛の育種改良を推進するため、種雄牛造成のための指定交配推進や技術研修会の開催等を委託する。 【大分県肉用牛改良組合連合会】	食肉鶏卵班
肉用牛	第11回全国和牛能力 共進会対策事業	・出品選抜強化事業	平成29年9月に開催される第11回全国和牛能力共進会に対する出品対策の強化に係る取組に対して支援。 【事業主体】第11回全国和牛能力共進会推進協議会	食肉鶏卵班
酪農	次代を担う 酪農経営基盤 強化対策事業	・乳用優良雌牛貸付事業	中核的酪農家の育成を目的として、酪農家を対象とした乳用優良雌牛の貸付に対して支援。 【大分県酪農業協同組合】	酪農・飼料班
		・酪農経営担い手育成対策事業	酪農家の生産性向上等を目的として開催される、知識や技術の習得等を目的とした研修会等を支援。 【大分県酪農業協同組合】	酪農・飼料班
		・第14回全日本ホルスタイン共 進会対策事業	平成27年10月に開催される第14回全日本ホルスタイン共進会の前哨戦として開催される、九州連合ホルスタイン共進会への出品に要する経費を助成。 【事業主体】大分県酪農業協同組合	酪農・飼料班
酪農	酪農経営構造 改革推進事業	・生産性向上強化施設整備事業	酪農経営の安定と所得確保を目的として、生産性向上に必要な省力化やカウコンフォート等に係る施設等整備を支援。 【事業主体】市町村及び大分県酪農業協同組合	酪農・飼料班
		・良質生乳流通検査体制整備事 業	大分県酪農業協同組合日田検査所に生乳検査機器を整備する経費に対して補助。 【事業主体】大分県酪農業協同組合	酪農・飼料班
酪農	緊急雇用牛乳・乳製品 消費拡大推進事業	・緊急雇用牛乳・乳製品消費 拡大推進事業	牛乳・乳製品等の消費拡大を目的として実施される、販売促進員による普及開発や販売促進活動等に対する支援。	酪農・飼料班
酪農	緊急雇用発酵乳 消費拡大推進事業	・緊急雇用発酵乳消費拡大推 進事業	発酵乳・乳酸菌飲料等の消費拡大を目的として実施される、販売促進員による普及開発や販売促進活動等に対する支援。	酪農・飼料班
養豚	養豚生産性 向上対策事業	・養豚経営体質強化推進事業	持続的に経営できる養豚経営体を育成するため、生産者間での課題共有や、課題解決に向けた取組を目的として開催される研修会等に対する支援。 【事業主体】大分県養豚協会	食肉鶏卵班
採卵鶏	採卵鶏生産性 向上対策事業	・採卵鶏飼養管理施設整備事業 (強い農業づくり交付金)	生産コストの低減等、生産性向上に必要な共同利用施設の整備を支援。 【事業主体】農業者等の組織する団体	食肉鶏卵班
肉用鶏	緊急雇用 おおいた冠地どり 消費拡大推進事業	・緊急雇用おおいた冠地どり 消費拡大推進事業	国内初、烏骨鶏を掛け合わせ造成された「おおいた冠地どり」の消費拡大推進を目的として、商品開発や加工技術の習得及びイベント等における試食提供等活動を行う人材の育成を支援。 【事業主体】おおいた冠地どり処理加工協同組合	食肉鶏卵班
飼料	草地畜産基盤整備事業	・草地畜産基盤整備事業	「安全」「安心」な自給飼料の活用促進及び規模拡大等による担い手の経営改善を進めることを目的として、飼料生産基盤の整備及び畜舎等の整備に対する補助。 【事業主体】(公社)大分県農業農村振興公社	酪農・飼料班
飼料	県産粗飼料流通 拡大事業	・稲発酵粗飼料を利用した混合 飼料の普及	県産稲発酵粗飼料及びビール粕等を原料とした繁殖雌牛用混合飼料の利活用研究に対する補助 【事業主体】大分県酪農業協同組合	酪農・飼料班

3 畜産振興課及び畜産技術室関係予算等のうち個別事業詳細（4 事業抜粋）

（事業名）肉用牛繁殖産地活性化モデル事業

（事業概要） 事業実施主体：市町村

採択モデル地区数：6 地区

補助率等：1/2（県1/3、市町村1/6、補助上限額：1,500千円/1モデル地区）

事業実施期間：H26年度～H28年度（1モデル地区あたり最大2年間継続実施可）

1 キャトルブリーディングシステム型

市町村が設定したモデル地区において、農業者または農業者の組織する集団が、繁殖雌牛の地域内集約飼育システムの導入に取り組むことを推進する市町村を支援する。

<繁殖産地活性化計画> モデル地区設定目標（3年後）「繁殖雌牛の受託頭数の拡大」

事業対象者：農業者（65歳以下または後継者を有すること）、農業者の組織する集団（3戸以上かつ規約を有すること）

事業内容（補助対象）：

- （1）改修整備：繁殖雌牛集約システム拠点の整備に必要な畜舎等の改修・設備の導入
- （2）防疫対策：繁殖雌牛の集約システム拠点全体の防疫対策の実施に要する経費
- （3）事例調査：先進事例視察研修実施に伴うバス賃借料等

2 放牧活用型

市町村が設定したモデル地区において、牧野組合が、放牧地の活用促進に取り組むことを推進する市町村を支援する。

<繁殖産地活性化計画> モデル地区設定目標（3年後）「放牧利用頭数の拡大」

事業対象者：牧野組合（①3戸以上で構成、②管理運営規程を有すること、③日誌等で放牧頭数が確認できること）

事業内容（補助対象）：

- （1）改修整備：牧柵や付帯設備の改修整備及び草地の更新等
- （2）維持管理強化：牧野の輪地切り及び野焼きに要する経費
- （3）防疫対策：放牧未経験牛の防疫対策に要する経費
- （4）事例調査：先進事例視察研修実施に伴うバス賃借料等

（事業名）酪農経営構造改革推進事業（生産性向上強化施設整備事業）

（事業概要） 事業実施主体：市町村又は県酪農協

補助率等：県 1/3、市町村 1/6、自己負担 2/3 又は 1/2

予算額：10百万円（施設整備6百万円、育成牛舎4百万円）

事業実施期間：H23年度～H27年度

（補助対象） 酪農経営の安定と所得確保を目的として、牛群の快適性追求等の生産性向上や、育成牛自家保留率の向上等経営の構造改革を推進するための取組に対して支援を行う。

補助対象施設等		目 的
暑熱対策	換気扇	夏期の暑熱対策と通気性改善による飼養環境の改善により、乳牛の損耗防止及び牛床の乾燥を促進し、乳量・乳質等生産性の向上を図るとともに、疾病発生による病畜管理労力の低減、清掃（糞尿処理）労力の低減を図る。
	細霧装置	
	屋根	
カウコンフォート用牛舎整備	牛床マット・カウブラシ	牛にとって快適な飼養環境を整備することにより、乳牛の持つ能力を十分発揮させ、また、牛体を衛生的に保ち、搾乳失宜による乳房炎の発生を軽減することで、作業性・生産性の向上を図る。
	4分割ミルククロー	
	乳頭拭拭装置	
	給水装置、飼槽	
	フリーストール化 保定枠（削蹄枠）	
省力化対策	搾乳ユニット 自動搬送装置	パイプラインミルク搾乳では、搾乳機具の持ち運びが重労働となっているが、本装置の導入により搾乳機具の持ち運びから解放されると共に、使用する搾乳ユニット数を増加することで搾乳時間の大幅な短縮を図る。
	自動給餌機	コンブリートミキサーに各種飼料を投入して混合飼料としたものを、自動給餌機により牛毎に設定した量を給与していくことで、給餌作業の削減を図る。多回数の給餌により乳牛は飼料の消化・吸収性能が安定し生産性の向上が図られる。
	コンブリートミキサー	
	自走式コンブリート フィーダー	自走式の混合飼料給餌機を導入することで、安価な原料の利用による飼料コスト低減と、施設投資費の削減を図る。
	ロールカッター	ロールベールの給餌ではロールの切断に多大な労力を要している。本装置は省力的なロールベールの切断が可能となると共に、正確な切断により、給餌ロスの減少が図られる。
	発情発見装置	繁殖管理は経営の根幹となる部分であるが、分娩間隔は多頭化や乳牛の高能力化により長期化している。また、分娩時の事故による経営的な損失も大きい。本装置の導入により、発情行動を省力で的確に発見すると共に、分娩時の事故を防ぐことで繁殖管理の効率化と分娩間隔の短縮を図る。
分娩予知装置		
	初乳加熱殺菌装置	出荷できない初乳等を加熱処理して子牛に安全に給与することにより、代用乳の購入経費など哺乳経費の削減に取り組む。
育成牛用牛舎整備		搾乳後継牛の自家保留率を高めることにより、生産コストの低減を図る。 【上限補助額】 新規整備 18,000円/㎡×補助率、改修 9,000円/㎡×補助率

(事業名) 肉用牛担い手支援事業

1 緊急雇用担い手人材育成事業

(1) 肉用牛ゼミナール(経営体育成プログラム)

肉用牛経営体の人材育成を図る肉用牛ゼミナールを開催し、経営感覚のある肉用牛経営者の育成を図る。

事業主体：(公社)大分県畜産協会

事業内容(委託内容)：

- (1) 肉用牛ゼミナールの開催(経営研修、流通研修、専門研修)
- (2) 経営コンサルタント活動(受講生の個別経営相談、経営改善に向けた課題整理等)
- (3) 地域アドバイザーによる個別相談(豊後牛飼い塾受講生等による個別相談、グループ研修会開催)

(2) ヘルパー育成プログラム

肉用牛ヘルパー要員の人材確保・育成のための養成研修を開催し、県内でのヘルパー活動の促進を図る。

事業主体：(公社)大分県畜産協会

事業内容(委託内容)：

- (1) ヘルパー養成研修の開催(飼養管理基礎研修、オペレーター技能向上研修)
- (2) ヘルパー利用促進活動(肉用牛担い手人材バンクの設置、先進地事例調査)
- (3) ヘルパー活動支援(利用農家実態調査等)

(3) ヘルパー養成実務研修

各地域でのヘルパー要員の確保・育成のため実施する、農場における実務研修。

事業主体：農業協同組合

事業内容(委託内容)：ヘルパー養成のための実務研修

2 肉用牛ゼミナール支援事業

経営体育成プログラムで設置する肉用牛ゼミナールの受講生を対象に、食肉の需要動向に応じた生産やブランド化の取組を支える人材育成を目的として実施する、県外での流通研修について支援を行う。

事業主体(支援対象)：経営体育成プログラムで設置する肉用牛ゼミナール受講生

事業内容：(1) 県外流通研修への参加支援

(事業名) 県産粗飼料流通拡大事業

(事業概要)

1 稲発酵粗飼料を利用した混合飼料の普及

肉用牛繁殖経営における飼料費削減及び県産資源の有効活用を目的に、稲発酵粗飼料やビール粕等の県産資源を活用した肉用牛繁殖雌牛用混合飼料の利活用に関する研究を行う。

事業主体：大分県酪農業協同組合

事業内容

- (1) 新たな繁殖雌牛用混合飼料の利活用に関する研究

2 焼酎粕濃縮液混合飼料の開発・普及

肉用牛繁殖経営における飼料費削減及び県産資源の有効活用を目的に、県内酒造メーカーの焼酎粕濃縮液と稲発酵粗飼料を主原料とした安価な子牛育成飼料を開発(現地実証試験)し、コントラクターと連携して普及拡大を図る。

事業主体：大分県農林水産研究指導センター 畜産研究部

事業対象者：牧野組合(①3戸以上で構成、②管理運営規程を有すること、③日誌等で放牧頭数が確認できること)

事業内容(補助対象)：

- (1) 子牛育成飼料の最適な配合割合の研究



飼料用稲を収穫するコントラクター



耕作放棄地への入牧

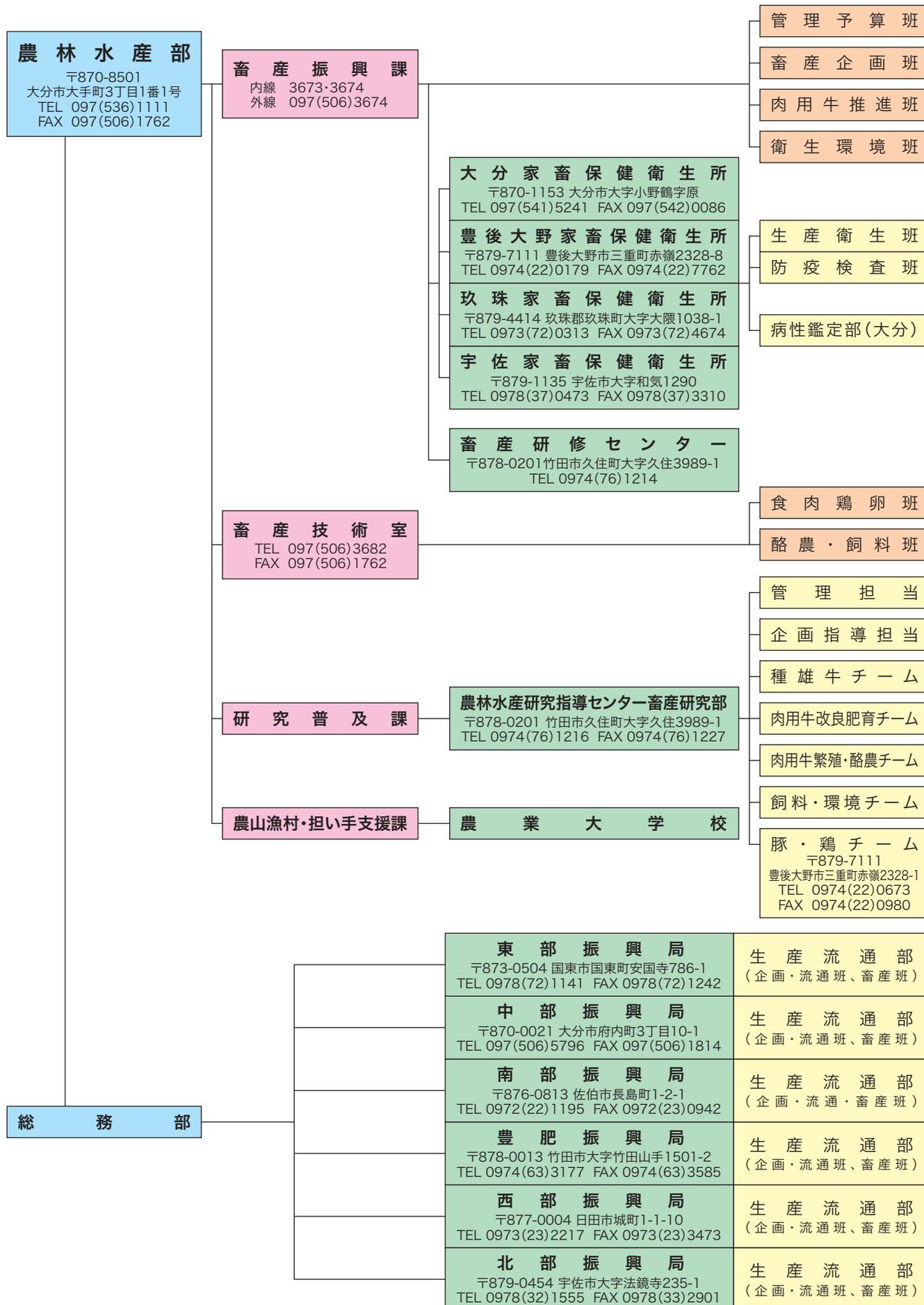
(資料 1)

畜産関係団体等一覧

名称	代表者	郵便番号	住 所	電話番号	FAX 番号
(公社)大分県畜産協会	近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 JA 全農大分県本部内	097-545-6591	554-4049
大分県家畜人工授精師協会	森川 英則	870-8501	大分市大手町 3-1-1 県庁畜産振興課内	097-506-3678	506-1762
大分県草地飼料協会	坂本 和昭	870-8501	大分市大手町 3-1-1 県庁畜産技術室内	097-506-3684	506-1762
(一社)大分県配合飼料価格 安定基金協会	帆秋 忠俊	870-0025	大分市顕徳町 2-1-3 カーサ阿部 203	097-534-2727	534-0991
大分県家畜商業協同組合	石田 和男	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 大分県農業会館内	097-532-8577	532-8582
(公社)大分県獣医師会	麻生 哲	870-0901	大分市西新地 1-2-29	097-555-9527	555-9528
(株)大分県畜産公社	佐藤 洋	879-7305	豊後大野市犬飼町田原 1580-29	097-578-0290	578-0308
(有)大分県酪農振興公社	中村 英範	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4222	586-4226
(公社)全国和牛登録協会 大分県支部	近藤 和義	870-0844	大分市古国府 1220 (全農大分県本部別館 1 階)	097-574-8588	574-8258
大分県養豚協会	工藤 厚憲	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養鶏協会	鈴木 明久	870-0844	大分市古国府 1220 (大分県畜産協会内)	097-545-6593	554-4049
大分県養蜂組合	枝次 秀樹	879-5506	由布市挾間町挾間 604	097-583-3307	—
大分県食肉事業協同組合 連合会	清田 浩徳	870-1121	大分市鴛野 929-3	097-529-6544	529-6599
大分県農業協同組合中央会	佐藤 洋	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 大分県農業会館内	097-538-6366	538-7125
大分県信用農業協同組合 連合会	秋國 崇己	870-0044	大分市舞鶴町 1-4-15 大分県農業会館内	097-538-6385	535-2746
全国農業協同組合連合会 大分県本部	幸野 茂巳	870-0844	大分市古国府 1220	097-544-0046	545-9532
大分県農業共済組合連合会	日野 立明	870-0822	大分市大道町 3-1-1	097-544-8110	544-8242
大分県酪農業協同組合	清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4222 (管理部)	586-4226
九州乳業株式会社	檜垣 周作	870-1201	大分市廻栖野 3231	097-586-4135	586-4136
(社)大分県酪農ヘルパー協会	清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪内)	097-586-4225 (酪農部)	586-4226
大分県牛乳普及協会	清末 健一	870-1201	大分市廻栖野 3231 (大分県酪中央支所内)	097-586-4094	586-4095
(株)大分県酪食肉公社	宇野 幸一	870-0108	大分市大字三佐字新港 2405-2	097-521-4452	522-2743

(資料 2)

畜産関係機関県組織機構 (平成26年4月1日現在)



未来を拓く
おおいた豊後牛たち

種雄牛

おおいた豊後牛 
大分県産の黒毛和牛

期待の星たち

平福安

寿恵福-安平-糸晴 (佐賀)



気高系雌牛との相性抜群

枝肉重量
593.2 kg
ロース芯
84 cm
BMS
No.12

検定牛(去勢)



現場後代検定成績

BMSNo. 7.3
ロース芯面積 61.2 cm²
枝肉重量 479.9 kg

光星

光照福-平茂勝-福桜(宮崎)
第10回全国和牛能力共進会
第1区(若雄の区)首席
農林水産大臣賞



登録点数 88.8点(国内7位)
兄弟牛肥育成績良好

玉吹雪

藤平茂-平茂勝-初藤

枝肉重量、ロース芯面積、バラ厚、脂肪交雑で高評価。気高の強い血統であり糸桜系、但馬系雌牛との交配を推奨。



平成22年度合同調査会トップクラス

湯布安平

安平-安福(岐阜)-招福

ロース芯面積、脂肪交雑で育種価高評価で県下で多く飼養される糸桜系及び気高系雌牛との交配を目的に造成された種雄牛



但馬系種雄牛

寿恵高福

寿恵福-平茂勝-神高福

現場後代検定ではBMSで大分県歴代2位の6.9という成績を出しています。育種価評価では脂肪交雑とロース芯面積で高い評価を得ている。交配は気高系、但馬系雌牛を対象とする。



検定成績BMS県内歴代2位

福之藤

藤平茂-糸福-八重福



現場後代検定ではBMSで6.3という高評価。枝肉重量と共に安定した成績を出しています。育種価評価では脂肪交雑と皮下脂肪厚で高い評価を得ている。交配は糸桜系、但馬系雌牛を対象とする。

まだまだ精液譲渡中!



寿恵福

糸福-福鶴57-八重福

名牛「糸福」の後継牛。枝肉成績は全ての形質で高い評価。肉質、肉量ともに抜群の改良効果あり。保留促進中。



隆茂38

隆茂福-安福-糸花

気高系、但馬系、糸桜系の遺伝的寄与率がほぼ同等。肉質、肉量で高い評価。いずれの系統の雌牛にも交配可能。

(資料 4)

県内の主要なふれあい牧場

町田バーネット牧場

大分県玖珠郡九重町町田
TEL 0973-78-9446 FAX 0973-78-9449

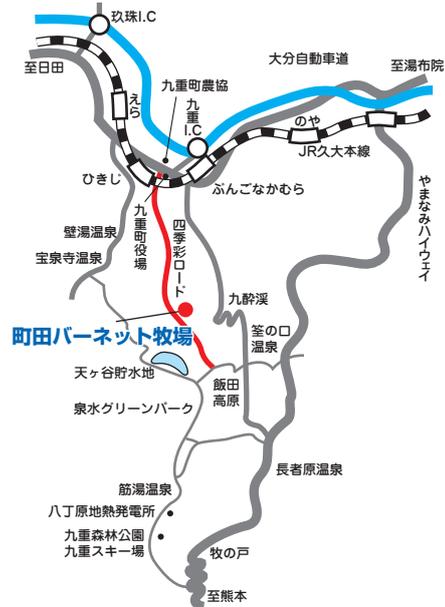
自然の景観が素晴らしい町田バーネット牧場は豊後牛をはじめいろいろな動物を飼育している。ポニー、ヤギ、ウサギ、地鶏に直接エサを与えたり、触ったり、動物とのふれあいを通して忘れかけた自然のすばらしさを満喫することができる。



○駐車場/300台 ○売店/有 ○営業時間/夏10:00~18:00 冬10:30~17:30 ○バーベキューハウス/有 ○休日・休館日(冬期)/第2・4火曜日 ○乗馬体験(有料)/5月連休・夏休みのイベント時

【アクセス】

- 電車/JR久大本線豊後中村駅下車、車で15分
- 車 /大分自動車道九重ICから15分



カウベルランドくす

大分県玖珠郡玖珠町大字戸畑9848-1
TEL0973-73-8037・FAX0973-78-8668

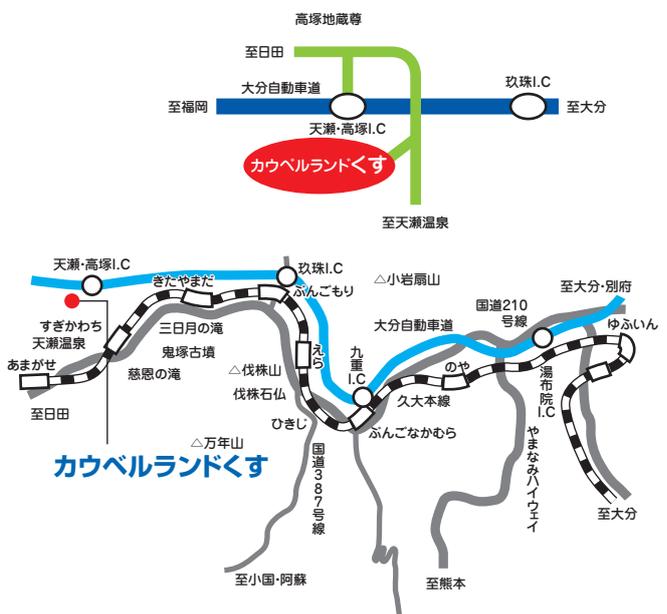
都市と農村の交流拠点として建設され、町内外の多くの人に親しまれている。場内には特産物直売館としてのレストラン(300人収容)、キャンプ場、小動物館そして四季折々の花が栽培される花壇等の施設が点在している。



○駐車場/340台 ○売店/有 ○営業時間/10:00~21:00 レストラン11:00~21:00 ○レストラン/有 ○休日・休館日/無 ○宿泊施設/有

【アクセス】

- 電車/JR久大本線豊後中川駅下車、車で20分
- 車 /大分自動車道天瀬・高塚ICから3分



ガンジーファーム

大分県竹田市久住町大字久住4004-56
TEL0974-76-0760

久住山の山麓の高原には名前の由来にもなったガンジー乳牛が飼育されている。乳製品工場、レストランや資料館が点在し、自家製乳製品はおみやげにも最適。ふれあい牧場（羊、ヤギ等）、ポニーハウスも有る。



○駐車場/100台 ○売店/有 ○営業時間/9:00~17:00 ○レストラン/有 ○休日・休館日/無 ○搾乳体験(晴れの日のみ)/土・日・夏休み ○オリジナル牛乳・乳製品/牛乳、アイスクリーム、チーズ、ヨーグルト他

【アクセス】

- ◎電車 / JR豊肥本線豊後竹田駅下車、車で30分
- ◎車 / やまなみハイウェイ(九州横断道路) 瀬の本交差点から15分



みどりマザーランド

〒870-1203 大分県大分市大字廻栖野3231
TEL 097-586-4183 (九州乳業株) 平成12年4月開園

都市(大分市)に隣接した地域にあって、豊かな自然に恵まれた山と緑が織り成す雄大な景観に浸りながら、広大な芝地の中での遊観。複合的遊具等、変化に富んだ施設が整備され、四季を通じて広く住民の「交流の場」として利用されています。



○駐車場/300台(イベント開催時1,000台)大型バス10台(イベント開催時20台) ○ふれあい・研修施設/ふれあい牧場、ふれあい公園施設、研修施設ふれあい棟・見学コース(製造行程) ○入園時間/9:00~17:00

【アクセス】

- ◎車 / 大分市中心街より20分



(資料5)

平成25年農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事（1～12月）

月 日	内 容
1月18日	おおいた肉牛生産者協会による肥育技術向上セミナーが開催される
2月5日	大分県農業青年プロジェクト発表会が開催され、田畑大樹氏（杵築市肉用牛繁殖）が最優秀賞を受賞
2月8日	なでしこ J A P A Nへ豊後牛を贈呈
2月14日	肉用牛改良研修会が開催される
2月27日	大分県自給飼料・放牧推進セミナーを開催
3月7日	大分県及び大分県牛乳普及推進協議会主催の県産牛乳を使用した料理教室が開催される
3月8日	大分県豊後牛女性組織連絡協議会が豊後牛料理自慢交流研修会が開催される おおいた冠地どり食育推進フォーラム2013を開催
3月14日	大分県畜産研修センター後継者養成研修 修了式
4月17日	大分県畜産研修センター後継者養成研修 入所式
4月22日	「おおいた豊後牛」ブランド統一の知事報告会 日田酪農組合設立50周年記念大会が開催される
4月25日	平成25年度ブラック & ホワイトショー（乳用牛共進会）が開催される
6月1日	牛乳の日イベント：街頭での牛乳消費拡大推進活動を実施
6月7日	牛乳月間イベント：県産牛乳・乳製品の知事への贈呈式
6月13日	大分県産牛乳・乳製品食育推進シンポジウム2013を開催
6月20日	「おおいた豊後牛」輸出出発式（輸出先：タイ） 牛乳月間イベント：牛乳を使用した和食料理教室を開催
7月3日	大分県コントラクター自給飼料増産セミナーを開催
7月10日	全国高等学校総合体育大会大分県壮行会にて激励の牛乳・乳製品を選手に配布
7月25日 ～28日	「おおいた豊後牛」ヤフオクドーム消費拡大フェアを開催
7月28日	おおいた型放牧推進セミナー2013を開催
8月28日 ～31日	大分県タイププロモーションを実施し「おおいた豊後牛」をPR
9月2日	「おおいた豊後牛」のうち肉質等級4等級以上を「頂 ^{いただき} 」に決定

平成25年農林水産部畜産振興課・畜産技術室の主な出来事（1～12月）

月 日	内 容
9月4日	大分県酪農業協同組合創立 50 周年記念式典が開催される
9月25日	大分県乳和食クッキングセミナー2013を開催
10月4日 ～6日	大阪駅前での大分フェアに参加。阪急うめだ本店、阪神梅田本店で「おおいた豊後牛」をPR。
10月5日	大分県畜産共進会（肉牛の部）が開催される 第1区では片桐和彦氏が農林水産省生産局長賞を、第2区では北崎敏文氏が九州農政局長賞を受賞
10月26日	大分県畜産共進会（肉用牛の部）が開催される 吉野純子氏が農林水産大臣賞を、佐々木国彦氏が九州農政局長賞を受賞
10月26日 ～27日	大分県農林水産祭（農業の部）において、畜産フェスティバルを実施 フェスタでは、県産畜産物の出品があった他、スタンプラリー等のイベントを実施
11月1日	NEW（乳）和食料理教室を開催
11月3日	大分県畜産共進会（乳用牛の部）が開催される （有）釘宮牧場が農林水産大臣賞を、アイ・アイ・デイが九州農政局長賞を受賞
11月6日	大分県特定家畜伝染病（HPA1）防疫演習を実施
11月22日	大分県家畜保健衛生並びに畜産関係業績発表会を開催
11月27日	大分県香港プロモーションを実施し「おおいた豊後牛」をPR
12月4日	大阪市中央卸売市場南港市場で「おおいた豊後牛」のオレイン酸測定を開始
12月12日	大分県自給飼料増産シンポジウム2013を開催



6月20日「おおいた豊後牛」輸出出発式



9月25日 大分県乳和食クッキングセミナー2013



「おおいた冠地どり」は、国内で初めて烏骨鶏を交配に用い、烏骨鶏由来の大きく逆立った毛冠と立派な顎ひげをもった地鶏です。その食味は、地鶏特有の歯ごたえとは一線を画し、やわらかで程よい弾力をもち、うま味に優れています。



「おおいた豊後牛」の中でオレイン酸含有率 55%以上の牛肉に、「豊味の証」を表示します。

「おおいた豊後牛」のおいしさ基準に適合した牛だけが、このマークを表示することができます。

※ オレイン酸含有率は、食肉脂質測定装置を用いて測定します。

大分の畜産 2013 (平成25年度版)

平成26年3月発行

編集・発行者 大分県 農林水産部 畜産振興課・畜産技術室

〒870-8501 大分市大手町3-1-1 TEL097-506-3674

印刷所 株式会社 インタープリンツ

※環境に配慮して再生紙を使用しています。